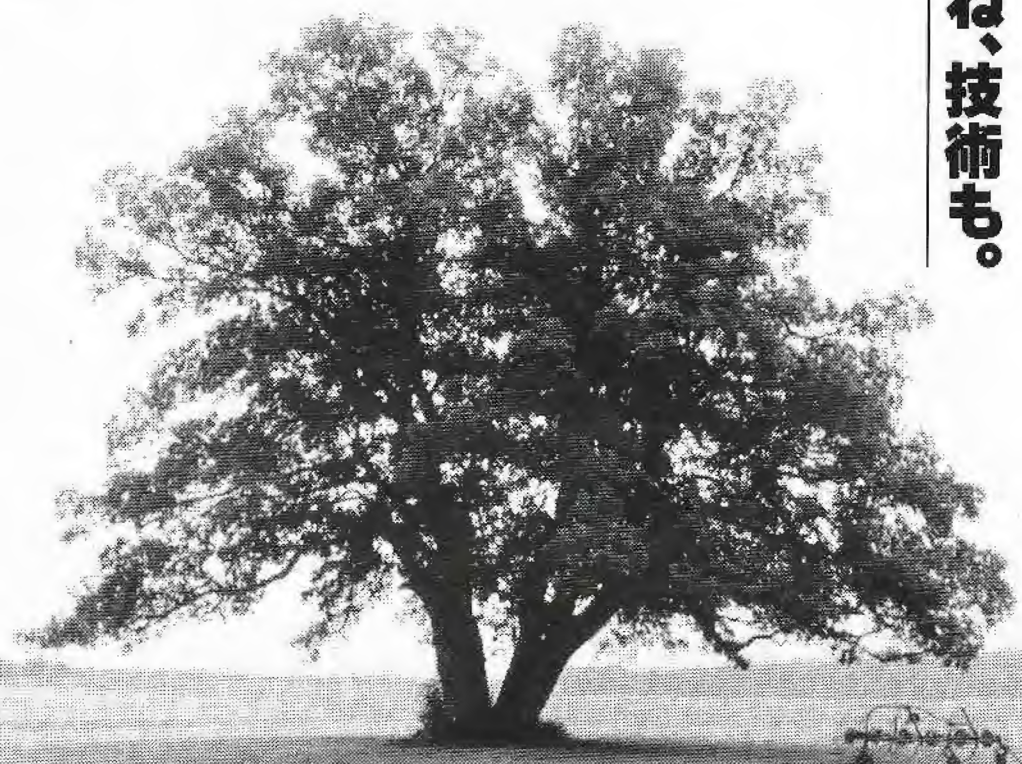

技術にこころをこめて75年


HITACHI

シンプルがいいね、技術も。

近年、"技術"はますます高度で複雑になってきました。専門知識を持った人や経験を積んだ人でなくては扱えないような機械もふえています。でも本来機械は、誰もが気軽に使えるものであるべきでしょう。これからの技術には単純明快なわかりやすさが必要なのです。いま日立はインターフェイスという言葉のもとに、人間と技術とのよりよい関係、誰もがかんたんに使いこなせる技術の実現をめざして研究・開発をすすめています。



株式會社 日立製作所　宣伝部 〒101 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 TEL東京(03)258-1111(大代)

第15回全国中学校ハンドボール大会総評

全国中学校体育連盟ハンドボール部部長　海保和夫

昭和61年度全国中学校選抜競技大会・第15回全国中学校ハンドボール大会は、8月21日から4日間、神奈川県・横浜文化体育館を主会場に全国から中学生の精鋭、男子16チーム、女子16チームの32チームによって盛大に開催されました。全国9ブロック代表による選抜競技大会となってから3回目を迎え、今年度は夏季15種目の開催が関東ブロック1都6県で開催されました。

選び抜かれた中学校のはつらつとしたプレーが、大会初日からハンドボールコート狭しとばかりに展開されました。応援席では、お父さん、お母さんの大声援がゲームを一層盛り上げ大会の雰囲気を興奮させてくれました。

男子では、テクニック、スピード、パワーなどに優れた多摩中（東京）が初戦から実力を発揮して第13回大会に続いて2度目の優勝を掌中に収めました。昨年度全国優勝した東陵中（愛知）、関東ブロック代表の大久保中（埼玉）、地元開催代表金沢中（神奈川）、4年連続出場の岩出中（和歌山）などの活躍が目立った大会でした。技術的には、高度なプレーが見られ、特に、ローリングによる早いパスプレーが多く見られ、ゴール前でのボールさばきのおもしろさに目を見張りました。しかし、走り込んでのロングシュートやサイド攻撃の少ないのは淋しかった。体格では、GKで180cmと大型キーパーが目立ったが、例年に比べてやや小さい感じを受けました。また、地域的にチーム数が少ない関係からゲームに慣れていないチームがあり、ルールに精通していないところを感じました。ブロックでのチーム数の差が、全国大会では技術の差となって現れて来てしまうのは、まだまだ中学校のハンドボールの普及と大きな関係をもっているのではないだろうか、今後の課題となるところです。

女子では、芦城中（石川）が安定した力を見せ、パワフルな攻撃と堅いディフェンスで第11回大会に続いて2度目の優勝を飾りました。参加16チーム中、9校が初出場という女子では、初々しいチームが多く、新鋭矢田中（愛知）、大谷中（大阪）、地元左近山中（神奈川）に対し、古豪・6年連続出場の小杉中（富山）、5回出場の二瀬中（福島）、2年連続出場の山田中（香川）、湯川中（北海道）、明野中（大分）などの活躍で熱戦が展開されました。

決勝戦では、芦城中が前半6―2と矢田中を突き放しゲームの半導権を握り優位に立った。後半、矢田中が速い展開で追いつき延長戦に持ち込んだ。両チーム共に、ベンチの監督の先生と選手が一体となり、一球一球に声援がとび、全力を出し切った選手の汗がコートを濡していた。延長に入り、芦城中は持ち前のスピードが勝敗を決め、2度目の全国制覇をもたらした。

女子の技術も、今年は全盤的にカットインプレー、ポストプレーが多く見られ、足を使った速攻のチームが少ないのは残念であった。体格的にも例年より小型であったが、早いモーションからの小気味良いミドルシュートが見られたのは、女子のプレーとしての今後に期待がもてる技術であった。

大会運営では、中体連の目標としてかかげている「中学生の手で運営に参加しよう」というスローガンのもとに企画準備されて来ました。本大会では、中学生が競技補助役員として、得点掲示、記録補助、コート整備、速報、受付接待、案内など、会場のあちらこちらで中学生の姿を見ることができました。また、大会に出場した各チームとの交流、親睦をねらいに、地元神奈川県の中学校ハンドボール部の仲間から色紙を贈ったり、友情応援をしたり、地元中学生との交流が好評であったことは印象に残りました。開会式では、全国でもめずらしい地元港南台第一中学校のジャズバンド演奏や、バトントワイリングなどのアトラクションを参加選手と共にスタンドで見学したことは良い想い出となりました。そして、中学校の先生方も長期間に渡り献身的な協力をいただき大会運営を支える源動力となり、大会を一層盛り上げてくれました。大会審判員も、日本ハンドボール協会のご理解により今年度より全日本大会審判組織に組みこまれ、日本ハンドボール協会指名レフェリーによって運営できたことは、全国中体連の長い間の懸案も解決されスムーズな競技運営ができました。これを機会に全国中体連としても組織的に運営ができるよう一層の努力をしたいと思います。

終りに、今大会を準備し成功裡に終了しましたことは、地元神奈川県、横浜市の教育委員会、中体連の方々、ハンドボール協会の皆様に心から感謝申し上げます。また、全国中学校体育連盟ハンドボール部の発展に物心両面からのご援助とご指導をいただきました、日本ハンドボール協会の皆様にも厚く感謝申し上げ、本年度の全国中学校ハンドボール大会の総評といたします。

〈男子〉多摩が2年ぶり2度目の優勝

▼1回戦

岩出（和歌山）16〔8—6 8—8〕14 **西条**（富山）

○…立ち上がり両校とも動きが固く、なかなか得点につながらない。しかし、西条のディフェンスにやや荒さが見られ、前半6分30秒、岩出・中露のPTが決まり均衡が破られた。その後はお互いの動きもスムーズになり、前半8—6で折り返した。

後半13分、西条も懸命に追いついたが、反則が多く、再び突き放されてしまった。力量はほぼ互角であっただけに、西条の退場、警告の多さが悔やまれる一戦であった。（和泉）

	〔西条〕	得
GK	古戸	0
	室田	0
FP	藤坂	1
	西川謙	0
	西川尚	0
	田中	5
	小路	1
	山本	1
	秋田	0
	山下	4
	尾居	1
	小畑	0
	濱井	1
	西森	0
	橋本	0
PT	(1)	14

（審・後藤、酒井）

	〔岩出〕	得
GK	牧浦	0
	尾山	0
FP	古関	3
	中露	3
	福岡	1
	田宮	3
	飯野	5
	小嶋	1
	藤永	0
	阪本	0
	藤井	0
	住岡	0
	笠中	0
	岡本	0
	藤岡	0
PT	(5)	16

大久保（埼玉）17〔4—9 9—4 3—0 1—3〕16 **熊本マリスト**（熊本）

○…前半、両チームとも緊張のためかミスの目立つ展開であったが、GKの好守に助けられ徐々に本来の調子を取り戻した熊本マリストがリードを奪う。

後半開始3分、大久保は竹内のシュートから反撃に転じ、遂に同点に追いつく。延長戦に入ったが、ミスの少ない大久保がマリストをふり切った。（佐久間）

	〔マリスト〕	得
GK	井上	0
	佐藤	0
FP	稲福	5
	棚原	6
	山本	0
	具志堅	0
	平良	0
	吉田	0
	寿福	2
	正木	0
	上釜	0
	今井	3
	新城	0
	田中	0
	高野	0
PT	(2)	16

（審・溝口、稲石）

	〔大久保〕	得
GK	渡部	0
	本橋	0
FP	柴山	0
	松村	0
	梅田	2
	杉山	0
	大植	0
	野島	1
	菱山	2
	竹内	3
	永山	5
	本間	4
	田中	0
	岩本	0
	鈴木	0
PT	(1)	17

二河（広島）19〔10—5 9—7〕12 **湯川**（北海道）

○…前半、お互いのGKの好守が目立っていたが、二河が湯川のミスやパスカットを速攻や背の高さを生かした攻撃に結びつけ、リードを奪った。

後半、湯川も宮田、和泉らの背を生かした攻撃をくり返したが、二河GKの好守にあい得点につながらず、追いつくことができなかった。（和泉）

	〔湯川〕	得
GK	小川	0
	飯野	0
FP	中浜	3
	村井	1
	山田	2
	中島	2
	和泉	3
	宮田	1
	大山	0
	緋田	0
	納谷	0
	鳶沢	0
	中島	0
	渡部	0
	黒嶋	0
PT	(1)	12

（審・黒田、松川）

	〔二河〕	得
GK	前川	0
	浜谷	0
FP	藤井	2
	石森	3
	森田	4
	清水	9
	石中	1
	木村	0
	西尾	0
	松村	0
	大印	0
	南原	0
	林	0
	山本	0
	井手	0
PT	(1)	19

東陵（愛知）23〔9—6 14—7〕13 **香川一**（香川）

○…前半、初戦のためか全体的に動きが悪かったが、地力に勝る東陵が少しずつ得点差を開いていった。後半も一方的に東陵が攻めていたが、もう少しダイナミックさが欲しい試合であった。（不明）

	〔香川一〕	得
GK	森	0
	高橋	0
FP	山西	0
	植田	2
	久保田	0
	藤川	0
	四宮	0
	大野	0
	山岡	0
	窓川	2
	上原	2
	増田	0
	黒川	0
	三好	7
	長谷	0
PT	(4)	13

（審・松本、石川）

	〔東陵〕	得
GK	神谷	0
	蛯原	0
FP	松島	0
	金澤	3
	高橋	8
	粟井	5
	深津拓	3
	鬼頭	1
	藤原	1
	丹羽	2
	深津尚	0
	掛川	0
	田野	0
	青山	0
	山下	0
PT	(2)	23

板津（石川）16〔10—3 6—7〕10 **亀山**（三重）

○…前半、板津はセットで守ってから速攻に出るというパターンで自分たちのペースで試合を進めた。後半、亀山・宮城のアクロバットなシュートで始まったが、亀山は今一歩波に乗れなかった。

試合を通して板津の守りからの速攻が目立った。しかし、亀山も最後まであきらめず精一杯プレーしていた。（不明）

	〔亀山〕	得
GK	天野	0
	尾山	0
FP	草川	0
	井上祐	3
	田中	2
	中崎	1
	宮村	0
	井上健	0
	横井	0
	井戸	0
	宮城	1
	早川	1
	若林	0
	井本	0
	草川	1
PT	(1)	10

（審・溝口、稲石）

	〔板津〕	得
GK	藤島	0
	太田	0
FP	北橋	1
	岡田	3
	石井	1
	西島	0
	有東	1
	杉永	6
	西田	4
	松本	0
	東	0
	天井	0
	森田	0
	藤田	0
	高橋	0
PT	(3)	16

多摩（東京）14〔7—3 7—5〕8 **新東淀**（大阪）

○…前半多摩ペースで展開されるが、新東淀ディフェンスの好守にあい多摩もあまり得点できなかった。新東淀のパスミスが惜しまれた。後半も前半同様に多摩ペースで試合が進んだが、両チームともにディフェンスが良く、得点差はあまり開かなかった。シュート力の差で決定したようだ。（不明）

	〔新東淀〕	得
GK	伊藤	0
	篠原	0
FP	土居	0
	永松	0
	東	0
	池田	3
	田平	0
	岩下	1
	上田	0
	渡辺	0
	井上	3
	黒坂	0
	浜田	0
	平田	0
	崎迫	1
PT	(0)	8

（審・平野、川本）

	〔多摩〕	得
GK	篠原	0
	増田	0
FP	五島	5
	若月	1
	金井	5
	岍	1
	井上	2
	本荘	0
	市川	0
	入江	0
	神蔵	0
	江浜	0
	奥津	0
	中田	0
	小山	0
PT	(2)	14

金沢（神奈川）23〔10—4 13—6〕10 **信夫**（福島）

○…前半、金沢が山地のサイドシュートと熊倉の速攻でいい出だしを切り、金沢ペースで試合が進んだ。信夫のGKの好守も目立った。後半、信夫もよく攻めたが、金沢のディフェンスを崩すことはできなかった。（松本）

	〔信夫〕	得
GK	熊坂	0
	村上	0
FP	柏倉	3
	渡辺	4
	斉藤	1
	金子	1
	安原	1
	半沢	0
	尾形	0
	今野	0
	丹治	0
	佐藤	0
	和知	0
	小幡	0
	浅尾	0
PT	(1)	10

（審・松本、石川）

	〔金沢〕	得
GK	石川	0
	柳下	0
FP	佐藤	1
	佐久間	2
	山地	3
	川瀬	1
	熊倉	5
	吉田	5
	角田	0
	刈込	0
	南牟禮	0
	西村	6
	高橋	0
	堀川	0
	後藤	0
PT	(1)	23

美川（山口）17〔10—5 7—10〕15 **城南**（福岡）

○…前半5分ぐらいまでは両チームともにさぐり合いの状態であったが、美川が城南のミスを誘って少しずつ得点差を広げていった。後半に入り城南が激しく追い上げたが、前半の失点が大きく惜敗した。（不明）

	〔城南〕	得
GK	柴田	0
	上田淳	0
FP	山本	0
	楠山	0
	花田	5
	松崎	3
	上田哲	2
	馬場	0
	政本	0
	森田	0
	池田	0
	今長谷	0
	森	3
	小田原	0
	寛	2
PT	(1)	15

（審・黒田、松川）

	〔美川〕	得
GK	上田	0
	久保	0
FP	藤井	2
	田村	3
	藤谷	2
	白石	3
	尾上	2
	中村敬	5
	田中	0
	河村啓	0
	大広	0
	中村佳	0
	河村進	0
	平金	0
	石原	0
PT	(3)	17

2回戦

大久保 18（8―8、5―5、2―2、3―2）17 岩出

○…前半の10分間は岩出が積極的に攻めたが、10分過ぎからは岩出・小嶋の退場をきっかけに大久保の反撃が始まり、前半は同点で終った。後半もとったりとられたりの試合展開となり、延長戦にもつれこんだ。

延長戦になっても同じような展開となり、延長残り5秒に大久保・永山の速攻からのシュートで試合が決まった。（松本）

〔岩出〕得 0 0 3 5 3 0 4 2 0 0 0 0 0 0 0
浦山閑露岡宮野嶋永本井岡中本岡
牧尾古中福田飯小藤阪藤住笠岡藤
(3) 17
GK FP 〔審・酒後 井藤〕 PT
部橋山村田山植島山内山間中本木
渡本柴松梅杉大野菱竹永本田岩鈴
得〔大久保〕0 0 0 0 3 0 0 0 2 3 2 5 3 0 0 0
18 (0)

東陵 19（7―6、12―7）13 二河

○…前半はお互いに相手の様子を見てゆっくりとした攻守で終始展開されたが、決め手がなくもつれた。

後半、東陵が押し気味に試合を進めふり切った。ただ東陵のプレーの荒さが目についた。（不明）

〔二河〕得 0 0 1 1 3 5 3 0 0 0 0 0 0 0 0
川谷井森田水中村尾村印原 本手
前浜藤石森清石木西松大南 林 山井
(2) 13
GK FP 〔審・川平 本野〕 PT
谷原島澤橋井拓頭原羽尚川野山下
神蛯松金高粟深津鬼藤丹深津掛田青山
得〔東陵〕0 0 0 0 5 0 7 4 3 0 0 0 0 0 0
19 (2)

多摩 14（5―4、9―5）9 板津

○…両チームともディフェンスの壁が厚く、フリースローラインを割ると攻撃が止められてしまい、得点がなかなか動かなかった。

前半15分経過して板津が反則から退場者が3人相つぎ、多摩が五島を中心に足を使った攻撃で得点を重ねる。後半も始まって5分間で板津は退場2名を出し、多摩が集中攻撃で3点連取し、勝負は決まった。（池端）

〔板津〕得 0 0 5 1 1 0 0 0 2 0 0 0 0 0 0
島田橋田井島東永田本 井田田橋
藤太北岡石西有杉西松 東 天森藤高
(2) 9
GK FP 〔審・石松 川本〕 PT
原田島月井 上荘川江蔵沢津田山
篠増五若金 峅 井本市入神江奥中小
得〔多摩〕0 0 6 3 0 3 1 0 0 0 0 1 0 0 0
14 (1)

金沢 13（5―5、8―7）12 美川

○…前半から速い動きが見られ、得点のとり合いになるかと思われたが、お互いにミスが多く決め手を欠いた、後半も激しい動きで両チームともに譲らずシーソーゲームが展開されたが、金沢が山地のシュートで逃げ切った。（佐久間）

〔美川〕得 0 0 0 0 4 5 1 2 0 0 0 0 0 0 0
田保井村谷石上敬中啓広佳進金原
上久藤田藤白尾中村田河村大中村河村平石
(1) 12
GK FP 〔審・稲溝 石口〕 PT
川下藤間地瀬倉田田込禮村橋川藤 久 牟
石柳佐佐山川熊吉角刈南西高堀後
得〔金沢〕0 0 0 1 6 1 0 4 0 0 0 1 0 0 0
13 (1)

準決勝

東陵 16（5―5、11―10）15 大久保

○…大久保は永山を中心に、東陵は正面でのゆさぶりながらシュートにつなげ得点していたが、お互い度々チャンスがありながら相手の好ディフェンスに阻まれた。

後半、お互い相手のミスを速攻につなげた攻撃をくり返し、1点を争う準決勝らしい好ゲーム展開になった。終了直前、東陵・藤原の放ったシュートが決勝点となった。（和泉）

〔大久保〕得 0 0 0 0 3 0 0 1 2 0 6 3 0 0 0
部橋山村田山植島山内山間中本木
渡本柴松梅杉大野菱竹永本田岩鈴
(1) 15
GK FP 〔審・酒後 井藤〕 PT
谷原島澤橋井拓頭原羽尚川野山下
神蛯松金高粟深津鬼藤丹深津掛田青山
得〔東陵〕0 0 0 0 5 6 2 2 1 0 0 0 0 0 0
16 (4)

多摩 22（14―4、8―6）10 金沢

○…前半から金沢は、多摩の速くパワフルな攻撃についていけずじりじり得点差が開いた。特に五島の巧さ、峅のゲーム作りが目立った。

後半も終始多摩ペースで進むかに思えたが、金沢の粘りで得点はあまり開かなかった。前半の得点差で決まった。（佐久間）

〔金沢〕得 0 0 0 1 2 0 0 1 2 0 0 4 0 0 0
川下藤間地瀬倉田田込禮村橋川藤 久 牟
石柳佐佐山川熊吉角刈南西高堀後
(3) 10
GK FP 〔審・石松 川本〕 PT
原田島月井 上荘川江蔵浜津田山
篠増五若金 峅 井本市入神江奥中小
得〔多摩〕0 0 12 5 3 2 0 0 0 0 0 0 0 0
22 (3)

決勝

多摩 18（10―7、8―8）15 東陵

○…前半、両チームともに切れの良いフェイントと速い攻めで展開するもディフェンスが固く、双方とも得点を重ねることがむずかしくシーソーゲームの様相を呈したが、五島、若月の個人技でリードを守った多摩が逃げ切った。（佐久間）

〔東陵〕得 0 0 0 1 4 4 5 1 0 0 0 0 0 0
谷原島澤橋井拓頭原羽尚川野山下
神蛯松金高粟深津鬼藤丹深津掛田青山
(2) 15
GK FP 〔審・酒後 井藤〕 PT
原田島月井 上荘川江蔵浜津田山
篠増五若金 峅 井本市入神江奥中小
得〔多摩〕0 0 10 3 3 1 1 0 0 0 0 0 0 0
18 (1)



傷だらけの勝利で思うこと（分析）

多摩中学監督・青木徹

今回の全国中学校ハンドボール大会の優勝は、拝島中で第7回、第9回、多摩中での第13回大会に継ぐ4度目。今年度のチームは、僕が持ったチームの中では、攻撃力、ディフェンス力とも最強であった。公式大会、練習試合を合わせ二百試合行なったが、レギュラーが7名そろっているときには、負けることがなかった。

「今年のチームのこわいのは、病気と怪我だけ。これさえなければ絶対に優勝間違いない」と自分でも思ってもいたし、他の中学の先生方も事あるごとに同様な話をしていた。

しかし、決勝戦では4番金井を除いて6名が何らかの故障をしており、今回の優勝は過去5回の中で、選手のコンデションが最も悪い状態であった。

一番GKの篠原は、8月13日練習中にサブGKの足の上に乗って左足首捻挫、歩くことはできなかったが、たいしたことは無いと思って、スポーツトレーナーのところへ行かせたら、「骨折かも知れない、整形外科医に診断してもらって欲しい」と電話をもらい、本人が帰るのを待ってすぐに整形外科医へ連れて行った。X線をとり「骨折はしていないが、3週間は絶対安静、運動などとんでもない」といわれ、松葉杖をついて帰って来た。

かかりつけのスポーツトレーナーのお陰で、全国大会までには左足をひきずりながらでも試合に出られるようになった。

2番ポイントゲッターの五島は、関東大会後の練習中に右足首を捻挫、大会2日目の対板津中戦で再度捻挫、左へのフェイントの切れが悪くなったが何とか試合に出場。3番若月は、慢性的な両足の捻挫でかかりつけのスポーツトレーナーの話では「テーピングをしっかりしないと、とても運動のできる状態ではない」とのこと。その若月が、都大会前の7月9日に日体荏原高校の新人チームとの6対6の練習でディフェンスの足に乗って捻挫、約1週間練習できず。試合中も無理のできない状態であった。

4番金井は唯一人健康そのもの。ただし対板津中戦より一人で気負い、無理なプレー、ミスプレーの続出。

5番キャプテン岸は、慢性的な左足の捻挫。6番井上は7月12日にシャトレーゼへ行ったとき以前痛めた左足を再度捻挫。

金井とともに健康だった11番江浜は、決勝の朝から頭痛と吐気、薬を飲ませ会場に向い、アップをはじめたら胃の中のものを戻してしまい、医務室で休養をとり試合に臨んだが、フラフラの状態で最もコンデションの悪い状態であった。

こんな状態で開始した決勝戦。昨年優勝の東陵中とは4月4～9日にわたる沖縄、熊本、山口、大阪、和歌山、石川への遠征試合の最終日に四日市の体育館で練習試合を行なった。このときは遠征疲れのコンデションの悪い状態で5点差で、また5月11日には名古屋市の大会の翌日、東陵中が疲れの残る中で練習試合を行ない20分のみで、13対5と勝っている。相手チームは5番粟井君をゲームメーカーとして、鋭いフェイントを武器に攻めてくることも、充分わかっていたし、互いに相手を意識し、東陵中の本谷正利先生は関東大会を、多摩中は名古屋市の大会、東海大会をそれぞれ見て、ビデオをとって研究していた。

試合が始まると、僕の予想に反し、東陵中の攻撃（特にフェイント）に対し多摩中のディフェンスが守りきれず、シーソーゲームになってしまった。

東陵中の攻撃法は当然予期してあったことだし、その守り方も前日のミーティングで指示してあった。しかし、普段ならば互いにフォローするところをフォローせず、カットに出るのが好きな金井がラインぎわで守り何度も抜かれるなど、4番金井、3番若月、11番江浜の左側のディフェンスミスで相手の得点15点のうち11点を取られた。多摩中の攻撃も大切な時に、何度もノーマークシュートを外したり、パスミスをくり返し、試合を相手のペースにしてしまった。


青木徹先生

多摩中は決勝戦のために、フォーメーションや攻撃パターンの幾つかを、それまでの試合で使わないで取っておいたが、それもほとんど使わずじまい。

結果は多摩中が18対15で勝ったが、相手のペースで試合を行ないイージーミスを続出し、本来ならば負け試合のパターンである。

試合が終って反省することばかり。試合終了のホイッスルがなって学校のある聖蹟桜が丘の駅に戻るまで、こんな試合運びになってしまった監督の指示の悪さ、チーム作りのまずさを反省していた。

今年のようにひとつの決め手

（五島のロング）を持ったチームでなければ、負け試合のはず。つくづく「このチームは強い。監督などはいらないチームだ」と改めて感心した。

全国大会で優勝し、嬉しさが込み上げてきたのは、聖蹟桜が丘の駅で出迎えの地元の人々、学校の父兄、生徒250名余りを前にしたときであった。

決勝戦では神奈川のチームをはじめ、関東のチームはもちろん、会場の8割近くの人が、ラッパや掛け声で多摩中を応援して頂いた。また、優勝したときには多くのチームが紙テープをなげるなど優勝を祝って頂き感謝しております。

さて、取り留めも無い事を書いてしまったが、決勝戦の試合の経過、内容を分析してみた（別表）講評はあえてしないがご参考まで別紙資料参照（この資料の整理は、新宿のハンドボール7とスポーツイベント「ハンドボール」の南木

多摩中 対 東陵中　試合経過

〈表１〉　　○は得点　　▲は得点チャンスをつぶしたもの

前半

	(00:08)	(00:28)	(00:40)	(00:48)	(00:53)	(01:22)	(01:52)	(02:28)	(02:33)	(03:10)	(03:31)
多摩中	2 ▲ フェイントノーマークシュートミス	(6ディフェンス)	3 ロングシュート	(4カット)	④得点 速攻のサイド	(3が5のフェイントにかかり4と11の間)	③得点	(6カット)	2 速攻パスミス5キャッチミス	(4マークあまく11が3を早くフォローしすぎ)	11 パスミス
東陵中	(4ぬかれ)	5 チャージ		4 パスミス		③得点 カットイン		4 パスミス		④得点 サイド	

	(03:40)	(　　)	(04:37)	(05:52)	(06:05)	(07:23)	(07:34)	(08:12)	(08:37)	(08:59)	(09:24)
多摩中	(3ぬかれ4フォローせず)	3 ▲ カットインノーマーク	⑤得点 サイドシュート2よりずらし	2カットしリバウンドひろう	2 チャージ		3 チャージ(4ノーマーク)	(2のシュートカットひろわれポストへ入れられる4のマークミス)	2 ロングシュート	(6ポストマークあまく2の上よりパスされる)	②得点 ロングシュート
東陵中	⑤得点			3 ロングシュート	(4ディフェンス)	8 オーバーステップ	(5,3の間)	7 ▲ 着地のラインクロス		⑥得点 ポスト	

	(09:58)	(10:21)	(10:25)	(11:12)	(11:20)	(12:21)	(12:45)	(12:54)	(13:01)	(13:20)	(14:51)
多摩中	(4かぬかれ11のフォロー)	6 速攻のポストPTもらい	2PT▲ PTはずす	(フェイントで4ぬかれ)	4 オーバーステップ		3 パスミス11のポストへ	2 パスカット	6 ▲ 速攻ノーマークシュートはずす	②得点 ロングシュート	(11のマークあまく)
東陵中	3 チャージ			3 ▲ オーバーステップ		4 サイドラインクロス	1 GK E	1 GK 速攻パスミス			④得点 サイドシュート

	(15:01)	(15:28)	(16:01)	(16:46)	(17:03)	(17:46)	(17:52)	(18:33)	(18:47)	(19:11)	(19:41)
多摩中	②得点 ロングシュート	(4マークあまく11フォロー早く)	④得点 サイドシュートずらし	(4ディフェンス)	②得点 フェイントノーマーク	(2シュートカット)	③得点 速攻ノーマークシュート 2･5･3とパス		4 ▲ 速攻サイドシュートノーマークはずす	(3ポストマークあまく2の上よりパス	③得点 カットインノーマーク
東陵中		④得点 サイドシュートうかし		3 チャージ	(6ぬかれ)	5 ロングシュート		4 サイドシュート角度なし		⑥得点	退場

〈表2〉

後半

	(00:12)	(00:40)	(01:07)	(01:13)	(01:56)	(02:27)	(03:03)	( )	( )	(03:58)	(05:10)
多摩中	11、1対1でぬかれ	4 ▲ サイドノーマークシュート ラインクロス		3 チャージ(速攻) 4はノーマーク	3に4がぬかれ3がフォロー	②得点 ロングシュート	(5マークミス)	6 6リバウンドをひろいPT	2PT▲ はずす	②得点 PTのリバウンド	
東陵中	①得点 サイドシュート		7 サイドシュート角度なし		⑥得点 ポストシュート		⑧ サイドシュートまわりこみ				5 ロングシュート

	(05:43)	(06:04)	(06:13)	(07:06)	(07:12)	(07:52)	(08:14)	(08:28)	(08:47)	(09:28)	(09:43)
多摩中	2 ロング	(4ディフェンス)	3 ▲ 速攻ノーマークシュート	3退場 (3につっこまれ)	(4ぬかれ)	②得点 フリースローよりフェイントノーマーク		4 チャージ	(5マークあまい)	4 ▲ サイドシュートノーマークずらし	
東陵中	(4カット)	3 チャージ			⑤得点 フェイントノーマークシュート		3 6へパスミス		⑦得点 サイドシュートずらし		パッシブプレー

	(09:46)	(10:19)	(10:27)	(11:04)	(11:16)	(11:43)	(12:13)	(12:23)	(13:04)	(13:07)	(13:33)
多摩中	2 パスミス速攻のパス5とれず	(11プッシングPT)		4 ▲ サイドシュートノーマーク	(4ぬかれる)	②得点 ロングシュート	2と3の上	11 ▲ ポストノーマークラインクロス		5 速攻パスミスカットされる	
東陵中		4 サイドつっこむ	⑤得点 PT		3 ▲ オーバーステップ		5 ロングシュート		8 ロングシュート	(3パスカット)	パスミスポスト5へ

	(13:44)	(14:16)	(14:40)	(15:00)	(15:10)	(15:39)	(15:51)	(16:18)	(16:42)	(17:41)	(17:52)
多摩中	⑥得点 ポストノーマーク5よりパス	11のつめ角度なし	3 リバウンドノーマークラインクロス	(4ディフェンス)	2 ロングシュート	(5つめ角度なし)	②得点 ロングシュート	(3のマークミス)	④得点 サイドシュートずらしノーマーク		5、4 4パスミス5キャッチミス
東陵中		4 サイドうかしシュート		3 チャージ		7 サイドシュート		⑥得点 カットインノーマーク		3 ロングシュート	

	( )	(18:19)	(18:53)	(18:56)	(19:38)	(19:45)	(19:59)	( )	( )	( )	( )
多摩中	2 (4ぬかれ3フォローしプッシング)		6 2よりパスをもらいポストシュートPTもらう	②得点 PT	(4マークあまくプッシング)		2 ロングシュート	終り			
東陵中	3 フェイントノーマークでPTもらう	⑤得点 PT			3 カットインPTもらう	5 ▲ PTはずす					

氏、山本氏、ハンドボール7の浅野氏にご意見を頂き整理した）

最後に、全国大会の出場枠が16チーム。現場の監督から「もう少しチーム数を増やせないものか。強化のためにも、また普及のためにも現状を少しでも変えていかないと、ハンドボールはいつまでたってもマイナースポーツからぬけられない」という声があることを知っていただきたい。

ハンドボールが、中学でもっと普及し、数多くの生徒がハンドボールに接し、その中から将来のオリンピック選手が出るように、底辺にいる我々中学の監督は、市民大会や中体連の地区大会の運営や、まったく初心者を指導することなどを初めとして普及、技術向上に全力を上げて頑張っています。

全国大会の出場枠が1チームでも増えるように協会、中体連の方々にお願いいたします。

表3　〔試合分析〕

攻撃回数

	前　半（攻撃時間）	後　半（攻撃時間）	合　計（攻撃時間）	1回当たりの平均攻撃時間
多　摩　中	21（6:47）	22（8:11）	43（14:58）	20.8秒
東　陵　中	21（13:13）	22（11:49）	43（25:02）	34.9秒

攻撃交代の内容

		得点	シュートミス	攻撃時の反則	攻撃時のミス	ミスが無ければ得点と予想されるもの
多摩中	前半	10	5(7)	3	3(パスミス3)	5（シュートミス5本）
	後半	8	6	5	3(パスミス3)	5（シュートミス3本　ラインクロス2本）
	合計	18	11	8	6(パスミス6)	10(シュートミス8本　ラインクロス2本)
東陵中	前半	7	3	7	3	2（ラインクロス1本　オーバーステップ1本）
	後半	8	8	4	2	3（シュートミス2本　オーバーステップ1本）
	合計	15	11	11	5	5（ラインクロス1本　オーバーステップ2本）

攻撃時の反則（オーバーステップ、チャージ、ラインクロス、パッシブプレーなど）

攻撃時のミス（パスミスなど）

得点の内容

	ロング	サイド	ポスト	フェイント、カットイン	速　攻	P　T	その他	合　計
多　摩　中	6	3	1	4	2	1	1	18
東　陵　中	0	6	3	4	0	2	0	15

多摩中のディフェンスミス

背番号	フェイントぬかれ	フォローミス	マークミス	つめミス	合　計	得点につながったもの	自責点
2	0	0	0	2	2	2	1
3	2	2	1	1	6	6	3.5
4	5	2	4	0	11	7	4
5	0	0	1	1	2	2	2
6	0	0	1	0	1	1	0.5
11	0	4	0	3	7	7	4

自責点はフォローミスなど他の者にも責任がある場合（2人の連係など）は0.5点、単純に個人に責任がある場合1点とした　（ただし、これは余り意味を持たないが、試案としてやってみた）

〈女子〉芦城、延長でふり切り2度目の栄冠

1回戦

富 山 14〔7―5 7―8〕13 大 島
（岡山）　（東京）

○…立ち上がり両チームともやや固さが見られ、シュートミスが目立った。スピードのある富山のカットイン、速攻に対し、大島はやや足の動きが悪く、また、PTを数本ミスするなどのシュートミスが多く、2点の差を縮めることができなかった。後半終りあたり富山のディフェンスの荒さが目立ち、退場者が出たが、大島は得点に結びつける事ができなかった。（不明）

得	〔富山〕		〔大島〕	得
0	渡会	GK	鈴木	0
0	田中		高村	0
3	八尋	FP	山田	2
0	赤井		関根	3
2	荒川		中村	2
1	光岡		竹田	6
2	那須		高橋	0
6	小野		安斉	0
0	岡		松屋	0
0	青山		大山	0
0	小林		中野	0
0	井本		青柳	0
0	平川		河野	0
			萩原	0
			原	0
14	(1)	PT	(1)	13

〔審・小笠原、浜田〕

矢 田 15〔9―5 6―3〕8 大瀬戸
（愛知）　（長崎）

○…大型フローターの西口にボールを集めて得点を狙う大瀬戸に対して、チャージを狙った積極的なディフェンスの矢田が、速攻、カットインと足を使った全員攻撃を見せて勝利を手にした。（不明）

得	〔矢田〕		〔大瀬戸〕	得
0	水野	GK	上田	0
0	宮部		藤谷	0
4	飯田	FP	野道	0
3	塩田		西口	6
3	三好		三島	1
3	坂井		江崎	1
2	相澤		山道	0
0	上松		橋口	0
0	道下		井手	0
0	伊藤		稲佐	0
0	塩美		山脇	0
0	山崎		川口	0
0	鈴木		谷口	0
0	内田		井手真	0
0	松尾		井手ト	0
15	(1)	PT	(0)	8

〔審・金子、松岡〕

中和田 17〔7―3 10―3〕6 二 瀬
（神奈川）　（福島）

○…立ち上がりから両チームとも速い攻撃を展開したが、中和田のつぶしに二瀬は雑な攻めが目立った。中和田は大川を中心に正面からサイドの攻撃を巧く使い確実に得点した。

後半、二瀬は速攻を多用したが、中和田のディフェンスが上回り、二瀬の動きが少なくなり、中和田の一方的な展開となった。（名倉）

得	〔中和田〕		〔二瀬〕	得
0	野尻	GK	大河内百	0
0	田村		佐藤	0
9	大川	FP	梢	3
2	清水		星美	0
0	穂積		中畑	1
1	中丸		小林	0
1	山本		星文	0
3	松野		降矢	1
0	堆頭		吉成	1
0	大島		佐久間	0
0	吉田		大河内広	0
0	中沢		横田由	0
0	八巻		横田力	0
0	奥田		大和田	0
0	岡本			
17	(3)	PT	(0)	6

〔審・栗城、新木〕

大 谷 8〔3―2 5―4〕6 小 杉
（大阪）　（富山）

○…前半両チームとも決定力に欠け、一進一退の攻防をくり返したが、後半に入り大谷が岡本のミドル、先槻のカットインなどで加点し2点差で逃げ切った。（柴田）

得	〔大谷〕		〔小杉〕	得
0	小野	GK	和田	0
0	江田		島倉	0
0	佐々木	FP	田町	0
2	柳田		中山	2
0	西田		大前	0
2	岡本		杉原	1
0	笹山		熊本	2
2	先槻		坂文	1
1	土井		橋本	0
1	村田		田守	0
0	酒井		堀	0
0	地天		大郷	0
0	加藤		川腰	0
0	小川		近藤	0
0	金銅		表	0
8	(0)	PT	(2)	6

〔審・細井、本田〕

玖 珂 18〔13―5 5―7〕12 日 枝
（山口）　（岐阜）

○…玖珂は速攻を中心に確実に得点していった。特に末弘の球出し、ロングシュートには注目したい。日枝はロングシュートからポストへとつないでいったが、動きのある玖珂のディフェンスにチェックされなかなか得点に結びつかなかった。

前半中ばからやや一方的な展開となってしまった。（名倉）

得	〔玖珂〕		〔日枝〕	得
0	岡山	GK	走川	0
0	平田		保木	0
3	白木	FP	水口	3
7	末広		桜本	1
0	西山		及川	1
4	中野		柳原	3
0	岡		長澤	0
0	山根		山下	4
0	竹本		桑谷	0
1	松永		林	0
2	山本		二村	0
1	田川		村本	0
0	福光		内谷	0
0	粟村		大森	0
0	河村		島田	0
18	(0)	PT	(2)	12

〔審・小笠原、浜田〕

芦 城 15〔10―3 5―7〕10 明 野
（石川）　（大分）

○…前半、攻守にまとまりを見せる芦城が速攻など足を使った攻撃で明野を圧倒した。後半に入り明野も必死の反撃を見せて芦城ゴールをおそい点差を縮めたが、前半の大量リードが影響して、結果的には芦城が逃げ切った。（不明）

得	〔芦城〕		〔明野〕	得
0	馬場	GK	中島	0
0	荒幡		遠竹	0
4	桜井	FP	奈良井	1
3	神		児玉	0
2	紺谷		角谷	1
3	河原		飛延	3
3	杉本		長田	1
0	田中		古川	1
0	宮岸		渡辺	2
0	山下		田中	0
0	福村		徳光	0
0	佐藤		香川	1
0	堀松		小野	0
0	園原		竹田	0
0	柳沢		甲斐	0
15	(0)	PT	(2)	10

〔審・新木、栗城〕

左近山 27〔13―2 14―3〕5 湯 川
（神奈川）　（北海道）

○…開始早々、相手のシュートミスから速攻を出し得点した左近山は、その後もスピードに乗った攻撃、速攻などで得点を加え、早々に主導権を握り、一方的な試合となった。湯川はディフェンスで止めながらも攻撃で終始コンビネーションが合わず、パスの乱れ、オーバースナップなどのミスが目

立ち、散発の攻撃となってしまった。（名倉）

	〔湯川〕	得	〔左近山〕	得
GK	澤部	0	大渕	0
	宮森	0	加藤	0
FP	長谷川	3	柿崎	4
	木下	0	鈴木優	2
	中村	0	徳島	8
	滝江	2	鈴木優	4
	平澤	0	五十嵐	5
	大地	0	菊川	4
	上村	0	佐藤	0
	井潤	0	志村	0
	遠藤	0	島崎	0
	越中谷	0	宇都	0
	白川	0		
	桃井	0		
PT	(0)	5	(4)	27

（審・中山 座間）

大瀬 12 （6−2 6−4） 6 山田
（奈良）（香川）

○…前半、固さが見られパスミス、チャージングとミスの多い山田に対して、大瀬は中尾がミドル、ペナルティースローを確実に決めリードした。後半に入っても大瀬のペースで進み、山田は最後までペースをつかみ切れずに敗れた。（柴田）

	〔山田〕	得	〔大瀬〕	得
GK	小川	0	上田	0
	武田	0	中澤	0
FP	満渕	2	西川	1
	熊野	0	橋本	0
	森	0	上田	1
	山本	1	中村	2
	飯間	0	谷村	2
	小原	2	中尾	6
	柳原	0	中里	0
	穴吹	0	鶯田	0
	中井	1	井口	0
	山下	0	稲沢	0
			小野	0
			辻	0
			渡辺	0
PT	(0)	6	(2)	12

（審・本田 細井）

2回戦

矢田 13 （8−3 5−9） 12 富山

○…矢田はスピードのある攻撃、動きのあるディフェンスからのパスカットで着実に得点してゆくのに対して、富山はスピードが生かせずパスミスなどが多くなった。

後半、ラスト5分前あたりで富山のディフェンスの動きが良くなり、30秒前には1点差までにつめ寄ったが、そこまでだった。

矢田の総合力、富山の粘りは見事だった。（名倉）

	〔富山〕	得	〔矢田〕	得
GK	渡会	0	水野	0
	田中	0	宮部	0
FP	八尋	1	飯田	4
	赤井	0	塩田	5
	荒川	0	三好	1
	光岡	1	坂井	0
	那須	4	相澤	2
	小野	2	上松	1
	岡	0	道下	0
	青山	4	伊藤	0
	小林	0	塩見	0
	井本	0	山崎	0
	平川	0	鈴木	0
			内田	0
			松尾	0
PT	(0)	12	(1)	13

（審・浜田 小笠原）

大谷 12 （3−5 9−3） 8 中和田

○…前半、エース・大川にボールを集め得点を加える中和田に対して、岡本のミドルが決まらず苦しい展開となった大谷だったが、後半になりポストのブロックを巧く利用した先槻のカットインなどで一気に逆転し、最後まで粘りを見せる中和田をふり切って勝利を手にした。（柴田）

	〔中和田〕	得	〔大谷〕	得
GK	野尻	0	小野	0
	田村	0	江田	0
FP	大川	5	佐々木	0
	清水	0	柳田	3
	穂積	0	西田	1
	中丸	2	岡本	2
	山本	0	笹山	0
	松野	1	先槻	4
	兼頭	0	土井	0
	大島	0	村田	2
	吉田	0	酒井	0
	中沢	0	地天	0
	八巻	0	加藤	0
	奥田	0	小川	0
	岡本	0	金銅	0
PT	(1)	8	(2)	12

（審・金子 松岡）

芦城 13 （8−7 5−5） 12 玖珂

○…芦城が速攻、速いパス回しで得点するのに対し、玖珂は末弘が正面のフリースローを決めた後得点を重ねた。後半は、総合力に勝る芦城が連続得点し主導権を握ったかに見えたが、玖珂GKがよく守り、また芦城に退場者が続出し、残り5分で同点に追いついた。しかし、芦城・河原のシュートで逃げ切った。

芦城のディフェンス、玖珂・末弘のシュートには目をみはるものがあった。（名倉）

	〔玖珂〕	得	〔芦城〕	得
GK	岡山	0	馬場	0
	平田	0	荒幡	0
FP	白木	0	桜井	1
	末広	9	神	1
	西山	0	紺谷	1
	中野	1	河原	3
	岡	0	杉本	7
	山根	0	田中	0
	竹本	0	宮岸	0
	松永	0	山下	0
	山本	1	福村	0
	田川	1	佐藤	0
	福光	0	堀松	0
	粟村	0	園原	0
	河村	0	柳沢	0
PT	(1)	12	(1)	13

（審・細井 本田）

左近山 16 （9−5 7−7） 12 大瀬

○…前半、中尾のミドルを中心にカットインを狙う大瀬に対して左近山は固いディフェンスでこれを守り、速攻、カットイン、ミドルと得点を重ねた。

後半に入って、大瀬は中尾のミドルで必死の反撃をするが、結局左近山が前半のリードを守り切って勝利を収めた。（柴田）

	〔大瀬〕	得	〔左近山〕	得
GK	上田洛	0	大渕	0
	中澤	0	加藤	0
FP	西川	0	柿崎	3
	橋本	0	鈴木優	1
	上田真	0	徳島	7
	中村	6	鈴木優	3
	谷村	0	五十嵐	2
	中尾	7	菊川	0
	中里	0	佐藤	0
	鶯田	0	志村	0
	井口	0	島崎	0
	稲沢	0	山内	0
	小野	0	平間	0
	辻	0	堀田	0
	渡辺	0	高橋	0
PT	(1)	12	(0)	16

（審・中山 座間）

準決勝

矢田 13 （6−4 7−7） 11 大谷

○…開始5分間は両チームともディフェンスが良く、全く得点に結びつかなかった。その後、ロングシュートを中心として両チームとも得点を重ねたが、残り3分、大谷に退場者が出たのをきっかけに矢田がリードした。

後半、速攻で得点する矢田に対し大谷は手こずった。最終的には攻守の早さが差となって表われた試合となった。（名倉）

	〔大谷〕	得	〔矢田〕	得
GK	小野	0	水野	0
	江田	0	宮部	0
FP	佐々木	1	飯田	4
	柳田	5	塩田	5
	西田	1	三好	1
	岡本	2	坂井	1
	笹山	0	相澤	2
	先槻	1	上松	0
	土井	0	道下	0
	村田	1	伊藤	0
	酒井	0	塩見	0
	地天	0	山崎	0
	加藤	0	鈴木	0
	小川	0	内田	0
	金銅	0	松尾	0
PT	(1)	11	(1)	13

（審・浜田 小笠原）

芦城 17 （12−7 5−7） 14 左近山

○…前半開始直後、動きが固くミスの目立った左近山に対して、芦城は速攻など足を使った攻撃で圧倒してリードを奪った。後半に入り、左近山も必死の反撃を見せたが、前半のリードに守られて芦城が逃げ切った。（柴田）

〔左近山〕
得 0 0 1 2 7 2 0 0 0 0 0　14
潤藤崎優島優嵐川藤村崎郁
木　木十
人加柿鈴徳鈴五菊佐志島宇　(1)

GK　FP　〔審・本田 細井〕　PT

〔芦城〕
場幡井 谷原本中岸下村藤松原沢　(3)
神
馬荒桜 紺河杉田宮山福佐堀園柳
得 0 0 3 5 2 4 2 1 0 0 0 0 0 0　17

決勝

芦城 14 （6－2、4－8、1－0、3－0） 10 矢田

○…前半、双方ともよく足を動かしたスピードのある攻撃をしかけたが、矢田は芦城の厚いディフェンスに阻まれてチャンスをつぶしていた。前半は芦城が押し気味に試合を展開していたが、後半、矢田が徐々に追い上げ白熱した戦いとなり、終了直前、矢田・塩田のシュートが決まり延長戦にもつれこんだ。延長戦は芦城の粘り勝ちとなった。（和泉）

〔矢田〕
得 0 0 2 4 1 0 2 1 0 0 0 0 0 0　10
野部田田好井澤松下藤見崎木田尾
水宮飯塩三坂相上道伊塩山鈴内松　(1)

GK　FP　〔審・小笠原 浜田〕　PT

〔芦城〕
場幡井 谷原本中岸下村藤松原沢　(3)
神
馬荒桜 紺河杉田宮山福佐堀園柳
得 0 0 3 1 2 3 4 1 0 0 0 0 0 0　14

2度目の全国制覇までの足跡

芦城中学校女子ハンドボール部監督・寺　隆司


寺隆司先生

今回で15回目の全国大会、私がこの芦城中学に赴任し、6年目にして、全国大会2回出場、それがなんと2回共全国優勝というどえらい宝物を手にしたのです。勝率10割、8戦全勝、不思議に全国大会に出ると負ける気がしません。これも数多くの先輩の方々の御指導により全国の名指導者と共に肩を並べられるところまで来たようです。

「いやいや、まだまだだな」。真の指導者になるには「勝つことばかり知りて負けることを知らず」ということだ。これは勝負ばかりではないと思うのです。

私は日も浅く〝芦中ハンド〟の歴史はよくわかりませんが、私にとっての恩師である現在、板津中学の西田啓先生の力があまりにも大きい。誰をさて置いても西田先生にありがとうございましたと言いたかったのですが……。そこは勝負の厳しさなのでしょうか。

私が西田先生と出会ったのは6年前。当時は男女ハンド部を持っておられた先生が、「わしといっしょにやらんか」と言ってくれました。でも私はハンドじゃなくてサッカーをしたくて、「もう少し考えさせてください」と1週間ねばったのを今も覚えています。

今でもサッカーには未練があります。でも現在の芦中にいる限り、誇りと伝統のハンドは続けるぞ、と決めています。初めて部に出たときは、西田先生の後を追うように着いていき、グランドへ出たなり女子のキャプテンであった（後の小松市女ハンドキャプテン）福田なおみが集合の合図をかけ、さっと集りびっくりするような大きな声で、「きおうつけ、礼、お願いします」と挨拶をしてくれました。なんとすごい部なんだろう、西田先生の指導が手に取るようにこれだけでもわかりました。私はこれなんだと思いました。

それから半年、来る日も来る日もベンチの長椅子で「行けー、もどれー」だけの声しか出せない。西田先生は細かい注意を出し、自分自ら中にはいってプレーされました。こんな日々を送るにつれ毎日が苦痛になり、知らず知らずに「彼女たちに負けたくない」と思うようになって行きました。

その年、北信越大会で惜しくも2位。今思うに全国アベック優勝のメンバーと変わらない力となによりをすばらしいチームワークがありました。女子は北信越2位でしたが、男子について全国大会（山口県）に行き、その時の開会式に胸をうたれたのです。「よーし、この大会に私も子供たちをつれて来るぞ」と心に誓いました。それが2年目でもう実現し、それも優勝までしたのだから地球がひっくり変えるぐらい「信じられない」の連発でした。でも西田先生にとっては我が手にかけた男女がついにやったのです。

それから次の年まで3年間、遠征や合宿、父母会、神社の祈願に至るまで先生についてさまざまなことを学ばせてもらいました。先生のおっしゃる言葉が私の耳にはいる時は常に名言集なのです。その中にも「棚の理論」はよく覚えています。導の枠組みがひとつで

もはづれたり壊れたりするとチームワークが乱れると言うことです。また、先生から教えられたことで一番参考になったのは、生活面での指導だと思っています。それが今になって役立っているし苦労しています。

2年目と今回の優勝を比べた時に、自分自身変わったのは、2年目のアベック優勝時は若かったのでしょう。それまでのことが脳裏を横切り涙があふれてしょうがなかったが、今回は試合が終わった後は、晴れ晴れしたものでした。そして次の行動に目を移していたり、相手の健闘を称えていました。

今思うに、優勝の陰にはいろんな要因がありました。優勝から優勝までの3年間、いや赴任してからの6年間、子供たち何十人が私の手を離れて行ったことか。苦しいことの連続でした。心の余裕なんてものはまったくなかったです。でもその時々に練習中訪れてくれ、励ましてくださった父兄や練習相手をしてくれたOG諸君。また小松市女や小松商業との練習、先生たちのアドバイスは私にとっても大きな希望となりました。

それからというもの、今の3年生が芦中にはいって来てから細かな計画性のある練習に変え、まず子供たちの意見を参考に目標設定をしたのです。全員で決めた10ヶ条がそれです。それをみんなが口を揃えて言えるまでにし、ひとつでも克服できるように努力しようではないかと毎日、毎日言い続けました。そして日がたつにつれ、その心条から全国大会優勝まで優勝旗7本を学校に持ち帰るんだとみんなは決意したようです。

部日誌には毎日の反省欄に精神面の反省とコメントを入れ、明日に残さない練習方針に心を配りました。でも何せ人間相手の集団。その日、その日によっては困った問題もおき、練習をさておき、ミーティングに変えた日もあったり、病気やけがで病院にあわてて運んだり額に汗をかきっぱなしの日も数多くありました。でも私が思い通りにやってこれたのは、子供たちが何より素直だったことです。そりゃあ中学生ですから時には跳ねっ返りな顔をしたこともありますが、

それ以上は絶対我慢していました。私も自分を押しころして子供たちに当たっていたので、それをみんな知っていたようです。おもいやりの気持です。

子供たちは「先生についていけばきっと……」という気持ちがあったのでしょう。そのへんに関しては父母にも感謝の気持ちでいっぱいです。父母も私のやりやすいように配慮され、いやな事はできるだけ私の耳まで届かない所で止めておいてくださったようです。ほんとうに周囲の暖かい行為は身にあまるものがありました。

さて今年のチームと言えば、ハンドボール王国、激戦区の石川から這い出した力は誰もが認めたことだろう。

けれども、このチームにも北信越というトンネルの中で一度立ち往生したのです。すぐそこの灯が見えるところでです。勝ちを意識したのでしょう。そして小杉中に大逆転されたのです。全員押し上げのパスカットから逆速攻であっという間にひっくり返され、その時点で優勝旗7本の夢は消えたのです。

優勝旗7本というのは、①小松市新人大会、②加賀地区新人大会、③石川県選抜大会、④小松市総合体育大会、⑤石川県総合体育大会、⑥北信越総合体育大会、⑦全国大会です。

あのことがきっかけで眼を見開いたようです。子供たちにはまだまだ甘い部分があった。これから全国大会までの2週間悔いの残さないように練習しようと口々に言いあいました。そして個人特訓に変え、残った時間をフォーメーションと逆速攻、一番大切なディフェンスのもどりの練習をくり返しました。

北信越大会での小杉戦は、全国優勝を計ったような一戦だったのかもしれない。また、全国大会ではその反省が絵に描いたように表われたのだから、あの時、あの練習とあの指示を出しておいてよかったとつくづく思います。

全国大会では各ブロック代表が集まりますが、先にも述べましたが負ける気はしなかったものの、一番私が心配したのは、1回戦でした。今まで育てて来た子供たちを一番よく知っている自分だからこそ、波に乗れるか乗れないかは明野戦で決まる。他チームと同様、明野の選手も色は黒いし足の筋肉と練習を見ても相当鍛えられている。

でもその不安も前半のすべり出しで吹き飛んでいました。先行逃げ切りでした。

本大会では対戦相手によっては厳しい戦いをしましたが、、そのつど綿密なミーティングをしてきました。中学生にとって、精神的なウェイトが一番の敵です。それを払いのけるだけの忍耐力と体力養成を冬期間みっちりやり自信を持ち暗示をかけてきました。自分自身にも。

楽な試合は一度もなかったが、ディフェンスからのフォーメーションを取り入れた流れるような攻撃は、私の恥ずかしながらの自信作である。

優勝という二文字の中には、いろんな要素が高度な状態で作動した時に生まれる言葉ですが、「もうひとつ目に見えない運を運ぶ者がいる」ということをある人に聞いたことがあります。芦中ハンドよ永遠不滅であれ！

連載

ユーゴスラビアで学んだこと

8月に男子ナショナルチームがユーゴスラビアで合宿を行なったが、そこで学んできたことを今月から連載でご紹介しよう。

GKのトレーニングについて

●井藤英忠

今回のゴールキーパーのトレーニングに関しては、FPと同様にアリスナジッチ氏の指導により行なわれた。アリスナジッチ氏は、ミュンヘン・オリンピックの優勝時のGKであり、情熱的な指導をGK3人は受けることができた。

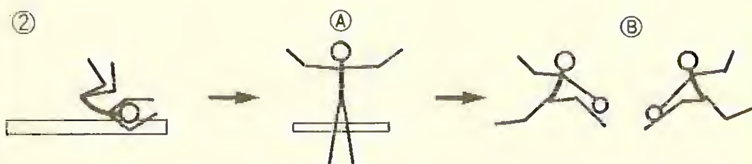
トレーニングの内容は、基礎トレーニングから始め、総合的なトレーニング（サイド、ポスト、ロングシュート、ブラインドシュートに対するキーピング）まで行なってきたが、私たちが日本で行なっているトレーニングと共通する部分も多く、内容に関しても似ているが、柔軟性、瞬発力、ジャンプ力などを、一つのトレーニングの中に含ませている所が日本と違

①



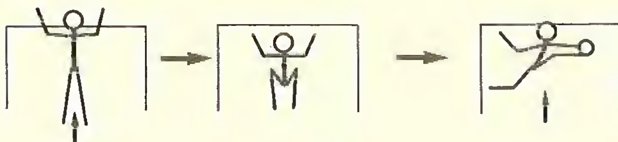
・立ちひざからのキーピングで手は必ずつま先の前までもってくる。(手で止める事)

②



・①の立ちひざの姿勢から、後ろへ半転して、正常のⒶの形になる。Ⓑの形でキーピング。(手で止める)

③



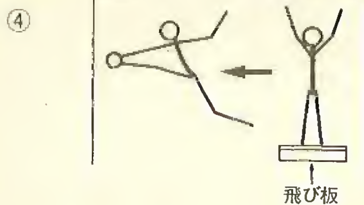
・ジャンプして前へ詰め、スクワットをしてまたジャンプをして、中段のシュートを止める。(左右する)

い、随分考えられているように思った。(今回のトレーニングでは、部分的なジャンプ力、瞬発力などのトレーニングは行なわず、図解の②⑤⑥⑧のように、マット運動にキーピングをプラスさせたトレーニング)。

私たちGK3人のキーピングと、日本的ではないと思うのは、上のコーナーに打たれたシュートに対し〈両手で止める〉という事である。私たち3人ともスムーズに止めることができず、アルスナジッチ氏に「片手でもいいのでは？」と質問をしてみると、「片手ではヨーロッパなどの強力なシュートに対し押し込まれてしまう」との答えで、アルスナジッチ氏に従いトレーニングを行なってきたが、「コーナーに両手を持っていくのは難しく、遅くなる」と最終的な3人の意見であり、このキーピングには日本的にアレンジしていく必要があると思う。

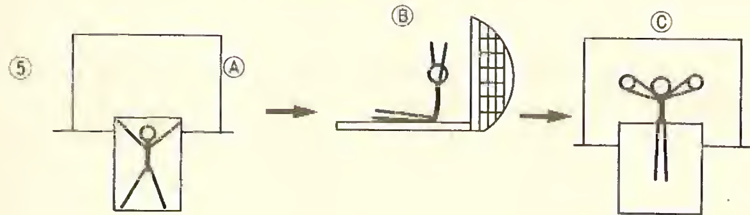
最も関心のあったGKとFPのコンビについては、DFとのコンビで動くGKと、DFとは関連せず自分のキーピングに徹するGK

④



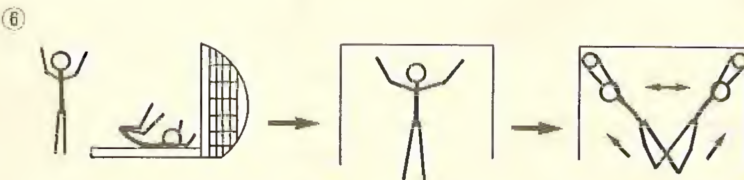
• 飛び板を使って横にジャンプして、手と足でキープする。
（上に飛ぶのではなく横へ飛ぶ）

⑤



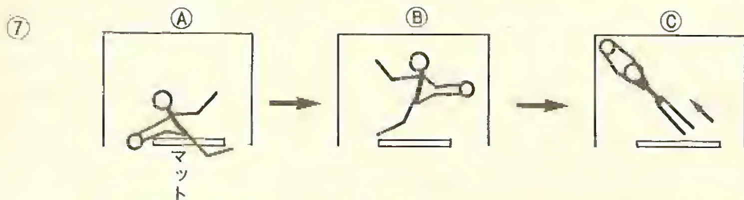
• Ⓐの図のように大の字に寝てすばやく上半身を起こす。Bの形。そのままの形Ⓒで左右のボールをキープ。(1回起き上がると、左右1球づつ投げる。)

⑥



• 正ポジションから、半転して、また正ポジションに戻る。そして2球続けて上のボールで止める(手は必ず両手)

⑦



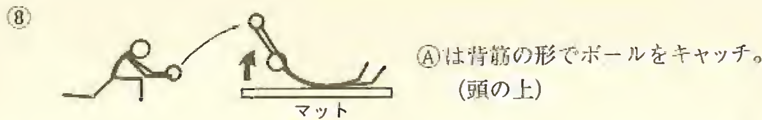
• ⑥の形の正ポジションから、Ⓐ→Ⓑ→Ⓒの順で3球続けて止める。(逆も同じ)

の種類があり、今回のアルスナジッチ氏の育てようとするＧＫは後者であり、私たちもそれに準じてトレーニングを行なってきた。このトレーニングの考え方も必要であるが、アジアでの大会では、日本のＧＫはＤＦとのコンビを切り離すことはできないので、ＤＦとＧＫのコンビの切れる時の判断力をつける事が必要であると思う。また、一つのチームに３人のＧＫが居るので、全く止め方の違う、個性を持ったＧＫを育てる事も必要である。

これから先日本チームが、世界の大型チームと戦っていく上でＧＫとしては、今回のアルスナジッチ氏のトレーニングは必ず通用するものであり、今回のトレーニングに対し、日本チームとして、また、個人としてアレンジしていき、効率あるトレーニングにすると共に、自分の実力にもプラスしたいと思います。

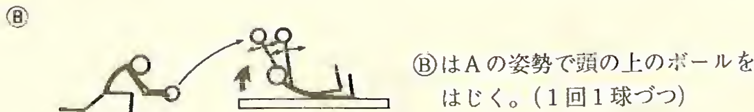
（今回行なってきたトレーニング内容を書きました。内容が前後になっている所があるかもしれませんが、添付します）

⑧



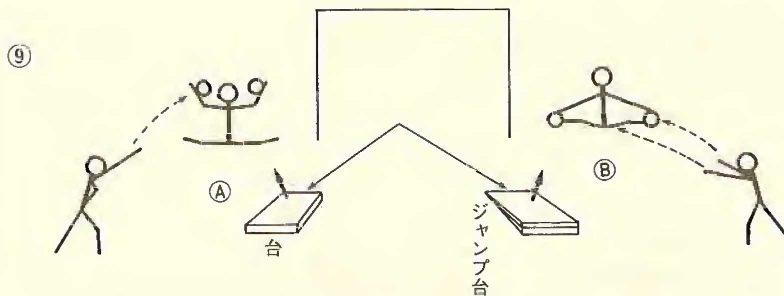
Ⓐは背筋の形でボールをキャッチ。
（頭の上）

Ⓑ



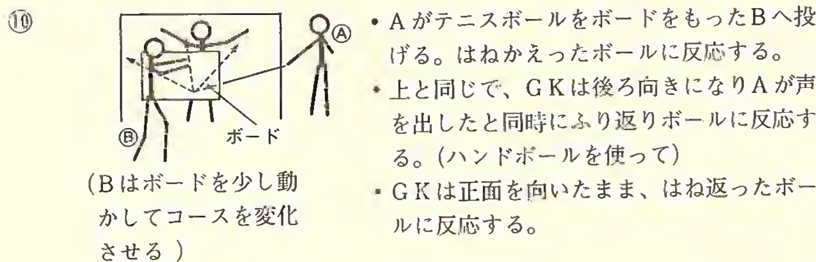
Ⓑは A の姿勢で頭の上のボールをはじく。（１回１球づつ）

⑨



Ⓐは大の字になって上(顔の横)のボールをキープ
Ⓑはジャンプ台を利用して高くジャンプし、中段のボールを手と足を使ってキープ
Ⓐ→Ⓑ→Ⓐ→Ⓑと５往復ぐらいする。

⑩

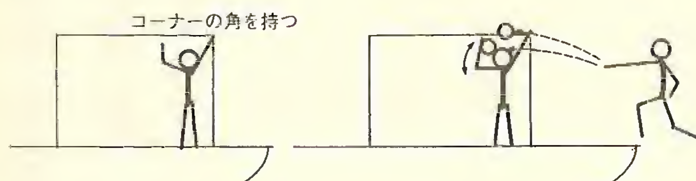


（Ｂはボードを少し動かしてコースを変化させる ）

- ＡがテニスボールをボードをもったＢへ投げる。はねかえったボールに反応する。
- 上と同じで、ＧＫは後ろ向きになりＡが声を出したと同時にふり返りボールに反応する。（ハンドボールを使って）
- ＧＫは正面を向いたまま、はね返ったボールに反応する。

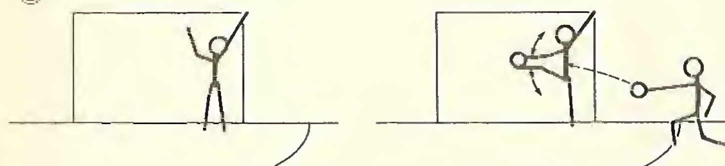
・サイドシュートに対するトレーニング

①



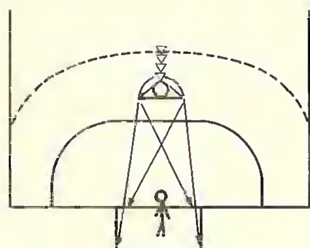
・サイドシュートに対し正常なポジションから、顔の横、頭の上などのボールをキープする。

②



・サイドシュートに対し、腰の横、中段のボールを手と足を使ってキープする。

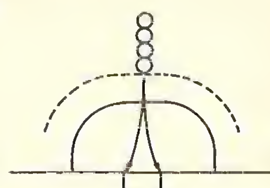
・ブラインドシュートに対する反応



・○のＤＦは立っているだけで、▽のプレーヤーは○のＤＦを利用して、ブラインドのステップシュートを打つ。ＧＫはそれに対し反応する
（シュートコースはフリー）

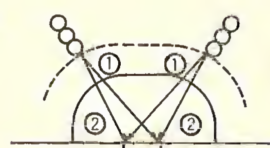
・総合的なトレーニング

1



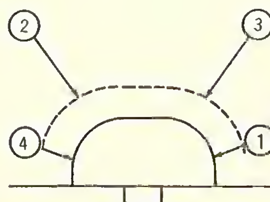
①下のコーナー交互
②中段を手と足で交互

2



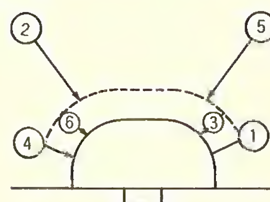
①は正常の位置から上のコーナーのシュートを両手で止める。交互
②は上のコーナーに初めに打ってくる逆のポストの位置から思い切って両手で止めにいく。(シュートに対しあまり早く動くと意味がない）

3



・①→②→③→④→①→②…の順でシュートを打ち、ＧＫはこれに反応する。６順ぐらいで交代。

4

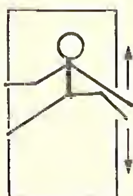


・3の練習にポストが２つ加わった練習。４順ぐらいで交代。

・柔軟に対するマット運動

①前　　転（３回）
②後　　転（〃）
③開脚前転（〃）
④開脚後転（〃）
⑤開脚前転での柔軟

・開脚前転をした後、片方の足に重心をかけ、筋を延ばす。(交互)



⑥受け身の形での前転（２回）
⑦倒立前転（２回）
⑧飛び込み前転（１回）まで

女子ジュニアイタリア遠征感想文から

道上圭子

私たち、ジュニアチームの今回のイタリア遠征は、まず日本ビクターでの合宿から始まりました。ジュニアチームとしての合宿は、今回が初めてですから、自分に与えられたキャプテンという大役とともに、短い期間の中でどれだけチームがまとまれて試合に臨めるのかなとさまざまな思いの中スタートしました。

練習内容は、コンビ練習を中心に外人を相手にするためのプレスディフェンスの強化、ディフェンスからの速攻、2人のコンビから6人のコンビそしてゲームへと進められた。その中で課題は、とにかくディフェンスで、前につめて守るという、外人の大きな動きに対し、小さい日本人がどれだけ前でつぶすか、動きを止められるかということで、毎日徹底してディフェンス練習が行なわれた。私はディフェンスが苦手なので、特に集中してやらなければならない練習でもあった。この合宿で私の感じたことは、まだ日本でもゲームをこなしていない私たちが外へでてやっていけるのだろうかという不安から、外人を相手にゲームをするというのに合宿で消化した日本ビクターとのゲームの中でのディフェンスの甘さ、自分たちのすべきことは何であるかと考える事がたくさんあったということ、それと、チームを組んだとき、苦しい場面でどれだけ、自分たちのプレイができるかという精神面での強さ、などといろいろありました。この合宿、遠征で得たものは、本当にたくさんありました。これも土台として、自分自身も、もっと考えて今やらなければならないことなど一つ一つ消化し、次のプレイにつなぎたいと思います。

村山みどり

インテラムニアカップの第1戦はシリアだった。試合に出場できなかったが、外から見ていて、得点は入るがスピードや強引さがなかったように見えた。ディフェンスは、抜かれた時にカバーがなかったようだった。

第2戦は韓国とだったが、会場はアスファルトの上にマットをひいたコートで、キーパーとしてはやりにくかった。韓国の高校生チームと試合をしたことはあるが、それ以上にスピードとパワーがあった。チームの一人一人にとてもシュート力があり、また、ボールをまわしながらのフェイント、パスワークの正確さなどヨーロッパのチームも比べても全くひけをとっていなかった。キーパーも動きがとてもすばやく、私は身長はあるのだから、もっとボールに対する反応を早くし、守備範囲を広げなければと思う。同じぐらいの年代の人たちがあれだけやれるのだから、今以上に努力しなければと思った。試合内容は、暑さのせいかとてもだらだらしているように見えた。それにチームの盛り上がりが少し欠けているのではないかと思った。

第3戦はスペインで、最初に私が出たが後で考えてみるともっと相手のシュートのタイミングに合わせて前につめるようにすればよかった。また、ポストシュートに対する位置どりもとれてなかった。試合は、前半の最初の方だけ得点的にもついていたが、後半の立ち上がりが悪く、大差になってしまった。

第4戦はブルガリアで相手のキーパーがうまかったので、よく見ていたら待って、そして下へ入れられないよう低く前へつめ、下に打たれた時でも、体勢の切り替えが早かった。試合内容は、オフェンスの時はいまいち攻めきれないようだし、ディフェンスは縦ブロックからポストに落としたりずらしでやられてしまった。

順位決定戦は、イタリアとだった。この試合は、ディフェンスも足が動いていたし、ムードもまあまあ良かったと思う。テラモでの試合では、最後まで波に乗り切れずという感じだった。

ホンジでのハンドフェスティバルの第1戦は、チェコのクラブチームだった。この試合は、ミスを少なくしサイドラインを割られないようにすれば絶対勝てたと思った。

第2戦は韓国でテラモの時より得点差を縮めるということで、前半の中頃まで2点差で追いかけていたが、結局ミスから点差が開いてしまった。もう少しディフェンスが45度やミドルに対するつめを早くすれば、ロングシュートによる得点をふせげたと思う。

第3戦は中国で、最初からずっとださせてもらったが、あまりいいキーピングはできなかった。自分自身もう少しとれると思ったけれど、それほど甘くなかった。もっと自分の技術を磨いて、堂々とキーパーをやれるようにしたい。

第4戦はカナダだったが、今まで一番内容のいい試合だった。ディフェンスも声がでていたし、足もちゃんと動いていた。見ていてもすごく熱が入っていたと思う。カナダ戦までは、ずっと闘争心やボールに対する執着心や盛り上がりが足りないと先生方に注意されてきたけど、この試合は本当に負けたけどいい試合だったと思う。

私は外人のスケールの大きいシュートにとまどって全く役に立たなかったけど、自分自身にとてもプラスになることを見て勉強できたし、世界のハンドボールというものを見れて、これからの練習に対し、インターハイ、国体の他に高校のレベルで考えるのではなくてもっと上のレベルの人たちとやってもすぐに対処できるようなキーピングができるようにするということを目標にやっていきたい。

梅津直美

この遠征で、ハンドボールのプレーだけでなく精神的な面など沢山の勉強をしました。

私たちはテラモ市にあるトリチエイラという小さな街にお世話になり、宿泊先は幼稚園でした。

ここでやはり生活の違いを感じたのは食事です。とにかく、食事の時間の長いことで朝を抜いて毎食2時間ほどかけて食べました。ですが、内容はとても地元の方々に気を使っていただき、8日間の滞在中メニューが重なったことが

ありませんでした。私が一番美味かったのはボンゴレスパゲティーでした。

試合では、実業団に入社して初めての国際試合でとても緊張しました。高校の時とは違い、ジュニアといえども、日の丸を付けたら日本の代表です。とにかく精一杯のプレーをしようと思っていたのですが、結果は2勝3敗となってしまいました。

私がこのインテラムニアカップで感じた事は、韓国のプレーと試合に対する心構えというか精神的なものの違いを見せつけられました。テラモでの試合は、悔やしいという言葉が最適だと思います。

ですが、テラモでは、楽しい思い出も沢山ありました。街の人とお祭りをしたり、色々な国の人々が集まったパレード、メンバー中で誕生日を迎えた人、地元の人とも沢山友だちになれました。

こうして、私たちのテラモでの8日間は終り、イタリア遠征も半分が過ぎ、テラモから車で4時間ほどあるホンジという所に移動しました。

やはりここでも私たちの宿泊先は幼稚園で、他の国のチームとも一緒でした。

ホンジでの食事は、テラモでの三分の一の時間ですんでしまい、一日おきに同じメニューが出るような感じでした。しかし、ここでは気持ちの切り換えという事でポンペイの遺跡や海へ、行ったりしました。とても楽しい時間でした。

フェスティバルの方でも、試合の結果は悪くなってしまいました。

二つの大会で感じたのは、プレーの甘さ、精神的な弱さですが、これからジュニアで勉強したことを自分のチームで生かし、自分のチームで勉強したことをジュニアで生かし、もう一度この大会に参加できたら必ず優勝したいと思いました。

新田千里

テラモ市で行なわれたフェスティバルも、ホンジ市で行なわれたフェスティバルもとても感動しました。自分たちは日本のイメージを表わして浴衣を着ました。他の国のチームの衣装は、とてもすばらしく思われました。特に韓国の衣装は、その国を表わしていてドレスのような感じでした。でも衣装とかいうよりもフェスティバルを見に来ている人々、イタリアの人たちの歓迎にはびっくりしました。

やはりイタリアのこの土地テラモ市とホンジ市には日本人が訪れるのが少ないためか、本当に私たちが町を歩くと、とてもびっくりしてかわからないが、手をふったりして歓迎してくれてとてもうれしかったです。本当は他の国の者が訪問したりすると変な目で見られますけどでもこの時はとてもよく迎えてくれました。フェスティバルの時、自分たちが持って行った5円玉を子供たちにあげたりするとてもうれしそうにしてはしゃぎ回っていました。コインに穴のいているのはとてもめずらしいからでしょう。そして、引き換えに100リラをくれました。町の中を行進していてちょっと長い道のりで、しかもげたをはいての行進だったため足がとても疲れました。

テラモ市のメイン会場に集まると、中国の子供たちがいろいろな芸を見せてくれました。かさを使ったり、羽を使ったりして私たちを楽しませてくれました。そのおかげで今まで足が痛かったのも忘れて、子供たちの芸を見るのに夢中でした。とても上手に踊れていて、とても素晴らしかったです。ホンジ市で行なわれたフェスティバルは、我が国旗の日の丸の赤のところが小さかったためなんとなく変な感じでした。試合会場に着くと、ここで試合をするのかと思うとなんとなくゾクッときました。本当に自分ではあのようなフェスティバルというのは初めてで、とても感動しました。市の人々の歓迎にはびっくりしています。

最後にフェスティバルとは全く関係ありませんが、イタリアで自分の誕生日を祝っていただきまして本当にうれしく思っています。一生の良い思い出として心に残っています。

鈴木智津子

月並みな書き出しになってしまうが、全てを終えた今、本当に素晴しい経験ができたと思います。イタリア遠征にあたって、藤原先生が、一言おっしゃいました。「やるべき時には一生懸命やり、楽しい時には、思いっきり楽しむ、悲しい事も苦しい事も、精一杯の思いで受けとめておこう……」と。今、その通りの充実した気持ちでいっぱいです。初めての海外遠征で、浮かれきっている心とは裏はらに、世界のハンドボールを、目のあたりに知らされ、何もできなかった自分……。カナダや韓国の全く違うハンドボールを、実際自分の目で見る事ができただけでも、大変勉強になったと思います。

私は、悔やしいことに、テラモにくる3日目、2ゲームをこなした日に、右腕を骨折してしまいました。まだ何もやっていなかったのに……。反省すべき点を残して、ギブスをはめるハメになってしまったのです。どうして、自分は、こう運が悪いのだろう……なんて、涙が止まらなかった私に、トリチェーラの人々は、とても優しくしてくれて、一緒に泣いてくれた人もいるぐらい親切になぐさめて下さいました。全く知らない異国の地で、ただただ映画のワンシーンのように眺めていた人たちが、まるで昔なじみの友だちのように思いはじめたのはこの時からでした。

それからの日々は、本当にあっという間に過ぎました。ゲームに参加できない分、マネージャーの仕事をがんばろうと思ったのですが、どうしてもあきらめきれず、勝手にギブスをはずしてしまいました。ギブスをはずして、テーピングを巻けばできるような気がしたんです。結局最後までボールを握れないまま、みんなに余計な心配までかけて、遠征は終ってしまいました。本当にすみませんでした。すごく悔やしかった思いを次の遠征で必ず晴らしたいと思います。

私にとってこの遠征は、決してつらく、悔やしいものではなく、その倍の楽しみと喜びがあったことは確かです。

おおいに喜び、おおいに悲しむという、はじめのスローガンのとおり、一日一日を大切にすごすことができたので、私はとても満足しています。

今度は、プレイ面で満足できるように、頑張ります。

日の丸をつけるにふさわしい選手になりたいです。まずは、腕を完治してから、努力します。

ありがとうございました。

第11回日本リーグ後期日程表

（一部男子）　（一部女子）

開催日	開催地	開始時間	（男子）組合せ	審判員	開始時間	（女子）組合せ	審判員
10/25（土）	金沢	15：15〜	湧永製薬×三景		13：50〜	ジャスコ×大和銀行	
	福井	16：30〜	大崎電気×三陽商会		15：00〜	大崎電気×日立栃木	
10/26（日）	名古屋	15：20〜	湧永製薬×三陽商会		14：00〜	大崎電気×ジャスコ	
	大分	14：40〜	日新製鋼×本田鈴鹿		13：00〜	日本ビクター×立石電機	
11/1（土）	四日市	15：50〜	湧永製薬×本田鈴鹿		14：30〜	立石電機×ジャスコ	
11/2（日）	福島	12：20〜	大崎電気×日新製鋼		11：00〜	日本ビクター×大和銀行	
11/3（月）	盛岡	15：30〜	大崎電気×本田鈴鹿		14：00〜	大崎電気×大和銀行	
	京都	17：00〜	三陽商会×三景		15：30〜	立石電機×日立栃木	
11/8（土）	富士吉田	17：30〜	日新製鋼×三景		16：00〜	日本ビクター×日立栃木	
	下関	16：30〜	湧永製薬×大崎電気		15：00〜	立石電機×大和銀行	
11/9（日）	栃木	13：00〜	日新製鋼×三陽商会		14：30〜	日立栃木×ジャスコ	
	北海道	13：00〜	本田鈴鹿×三景		14：25〜	日本ビクター×大崎電気	
11/15（土）	岐阜	16：00〜	大崎電気×三景		14：30〜	日本ビクター×ジャスコ	
	広島	14：30〜	湧永製薬×日新製鋼		15：00〜	日立栃木×大和銀行	
11/16（日）	熊本	13：30〜	本田鈴鹿×三陽商会		15：00〜	大崎電気×立石電機	

（二部男子）　（二部女子）

開催日	開催地	開始時間	（男子）組合せ	審判員	開始時間	（女子）組合せ	審判員
10/25（土）	金沢				16：40〜	シャトレーゼ×北国銀行	
11/2（日）	埼玉	13：00〜	大阪イーグル×日鉄建材		15：40〜	東京重機×北国銀行	
		14：30〜	トヨ自動車×トヨ車体				
		17：00〜	本田熊本×大阪ガス				
	福島				14：00〜	ブラザー工業×ムネカタ	
11/3（月）	埼玉	9：00〜	トヨタ車体×本田熊本		10：20〜	北国銀行×ソニー国分	
		11：40〜	大阪イーグル×トヨ自動車		14：20〜	シャトレーゼ×東京重機	
		13：00〜	大阪ガス×大同特殊鋼				
		15：40〜	日鉄建材×中村荷役				
11/8（土）	富士吉田				13：00〜	ブラザー工業×ソニー国分	
					14：30〜	シャトレーゼ×ムネカタ	
11/9（日）	甲府				10：00〜	東京重機×ソニー国分	
					11：30〜	北国銀行×ムネカタ	
					13：00〜	ブラザー工業×シャトレーゼ	
11/15（土）	名古屋	11：30〜	大同特殊鋼×日鉄建材		13：00〜	ブラザー工業×北国銀行	
					14：20〜	シャトレーゼ×ソニー国分	
					15：40〜	東京重機×ムネカタ	
11/16（日）	熊本	12：00〜	日鉄建材×本田熊本				
	名古屋	11：20〜	トヨ自動車×大同特殊鋼		10：00〜	ムネカタ×ソニー国分	
		14：00〜	大阪イーグル×トヨ車体		12：40〜	ブラザー工業×東京重機	
		15：20〜	中村荷役×大阪ガス				

第8回東日本学生選手権

8月16日～21日／函館市民体育館ほか

男子

▼予選リーグ

○Aブロック

国士館大 28―15 福島大
東京学芸大 21―19 金沢大
国士館大 23―14 東京学芸大
福島大 26―24 金沢大
国士館大 26―13 金沢大
東京学芸大 26―17 福島大

［順位］①国士館大②東京学芸大③福島大④金沢大

○Bブロック

日大 34―9 千葉大
東北学院大 37―19 東大
日大 40―13 東大
東北学院大 35―20 千葉大
日大 34―23 東北学院大
東大 17―15 千葉大

［順位］①日大②東北学院大③東大④千葉大

○Cブロック

早大 30―10 北海道教大釧路
明大 26―18 仙台大
早大 24―12 明大
仙台大 31―25 北海道教大釧路
早大 34―16 仙台大
明大 25―8 北海道教大釧路

［順位］①早大②明大③仙台大④北海道教育大釧路分校

○Dブロック

日体大 39―10 東北大
国際武道大 27―14 小樽商大
日体大 30―19 国際武道大
小樽商大 27―24 東北大
日体大 32―10 小樽商大
国際武道大 20―20 東北大

引き分け

［順位］①日体大②国際武道大③小樽商大④東北大

○Eブロック

中大 35―10 信州大
東海大 28―22 北海道大
中大 22―15 東海大
北海道大 38―14 信州大
中大 19―15 北海道大
東海大 35―18 信州大

［順位］①中大②東海大③北海道大④信州大

○Fブロック

金沢工大 24―14 北海学園大
法大 28―19 順天堂大
順天堂大 41―12 金沢工大
法大 41―12 北海学園大
法大 41―17 金沢工大
順天堂大 40―7 北海学園大

［順位］①法大②順天堂大③金沢工大④北海学園大

○Gブロック

函館大 23―16 山形大
慶大 27―13 武蔵工大
函館大 29―9 武蔵工大
慶大 21―17 山形大
山形大 26―19 武蔵工大
慶大 21―15 函館大

［順位］①慶大②函館大③山形大④武蔵工大

○Hブロック

岩手大 31―14 北海道教大函館
筑波大 31―15 駒沢大
岩手大 33―18 駒沢大
筑波大 46―9 北海道教大函館
筑波大 36―19 岩手大
駒沢大 27―23 北海道教大函館

［順位］①筑波大②岩手大③駒沢大④北海道教育大函館分校

▼決勝トーナメント1回戦

日大 28―22 早大
国士館大 29―16 慶大
筑波大 29―24 日体大
中大 32―21 法大

▼順位決定1回戦

早大 26―17 慶大
日体大 33―19 法大

▼7位決定戦

法大 22―16 慶大

※5位決定は行なわず、早大、日体大ともに5位。

▼準決勝

日大 34 (17―11, 17―12) 23 国士館大
筑波大 19 (8―10, 11―4) 14 中大

▼3位決定戦

国士館大 27 (14―10, 13―9) 19 中大

▼決勝

筑波大 32 (16―11, 16―18) 29 国士館大

女子

▼予選リーグ

○Aブロック

東女体大 42―4 富山大
日女体大 33―10 山形大
日女体大 36―3 富山大
東女体大 35―6 山形大
山形大 23―14 富山大
東女体大 27―17 日女体大

［順位］①東女体大②日女体大③山形大④富山大

○Bブロック

筑波大 30―12 岩手大
日体大 29―9 東京学芸大
日体大 35―8 岩手大
筑波大 28―11 東京学芸大
東京学芸大 24―12 岩手大
筑波大 23―16 日体大

［順位］①筑波大②日体大③東京学芸大④岩手大

▼決勝トーナメント1回戦

東女体大 30―20 日体大
筑波大 30―10 日女体大

▼3位決定戦

日体大 28 (18―7, 10―6) 13 日女体大

▼決勝

東女体大 27 (13―8, 14―12) 20 筑波大

第25回（女子16回）西日本学生選手権（8月17日～21日／愛知県名古屋市体育館ほか）

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

大体大 48－10 名古屋大
大体大 38－6 広島大
大体大 36－10 東和大
東和大 28－12 広島大
東和大 23－20 名古屋大
名古屋大 20－15 広島大

［順位］①大阪体育大②東和大③名古屋大④広島大

○Bブロック

京産大 25－19 名城大
京産大 39－16 岡山大
京産大 25－22 熊本大
名城大 22－14 岡山大
名城大 26－25 熊本大
熊本大 29－23 岡山大

［順位］①京都産業大②名城大③熊本大④岡山大

○Cブロック

天理大 28－25 名学大
天理大 27－23 大教大
天理大 34－27 福教大
大教大 26－19 名学大
大教大 27－19 福教大
名学大 28－25 福教大

［順位］①天理大②大阪教育大③名古屋学院大④福岡教育大

○Dブロック

中部大 20－19 近畿大
中部大 31－17 桃山大
中部大 27－17 高知大
近大 19－15 桃山大
近大 24－19 高知大
桃山大 22－21 高知大

［順位］①中部大②近畿大③桃山学院大④高知大

○Eブロック

同大 24－18 山口大
同大 32－21 愛教大
同大 30－7 琉球大
山口大 32－18 愛教大
山口大 26－21 琉球大
愛教大 20－17 琉球大

［順位］①同志社大②山口大③愛知教育大④琉球大

○Fブロック

大経大 38－10 南山大
大経大 25－21 松山商大
大経大 30－16 大院大
松山商大 26－15 南山大
松山商大 27－19 大院大
大院大 27－17 南山大

［順位］①大阪経済大②松山商科大③大阪学院大④南山大

○Gブロック

福岡大 25－16 愛学大
福岡大 22－17 神戸大
福岡大 32－12 京教大
神戸大 20－15 愛学大
神戸大 17－13 京教大
京教大 22－16 愛学大

［順位］①福岡大②神戸大③京都教育大④愛知学院大

○Hブロック

中京大 17－11 関大
中京大 29－16 久工大
中京大 27－9 大阪大
久工大 21－18 関大
久工大 16－12 大阪大
関大 17－8 大阪大

［順位］①中京大②久留米工大③関西大④大阪大

▼決勝トーナメント1回戦

大体大 37－19 京都産大
天理大 32－25 中部大
同大 32－21 大経大
福岡大 三〇－26 中京大

▼準決勝

大体大 30（15－7, 15－9）16 天理大
同大 35（20－15, 15－15）30 福岡大

▼3位決定戦

天理大 39（22－14, 17－19）33 福岡大

▼決勝

大体大 29（14－10, 15－12）22 同大

〈女子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

武庫川女大 25－5 中京女大
武庫川女大 27－13 天理大
武庫川女大 25－7 福教大
天理大 20－12 中京女大
天理大 17－15 福教大
中京女大 16－15 福教大

［順位］①武庫川女大②天理大③中京女大④福岡教育大

○Bブロック

山口大 15－5 三重大
山口大 18－9 京教大
山口大 23－10 和歌山大
京教大 15－12 三重大
京教大 15－11 和歌山大
和歌山大 11－7 三重大

［順位］①山口大②京都教育大③和歌山大④三重大

○Cブロック

福岡大 22－18 愛知大
福岡大 17－10 大教大
福岡大 29－17 成蹊短大
愛教大 15－13 大教大
愛教大 27－7 成蹊短大
大教大 20－14 成蹊短大

［順位］①福岡大②愛知教育大③大阪教育大④成蹊女短大

○Dブロック

大体大 28－8 中京大
大体大 26－8 岡山大
大体大 29－5 鹿児島大
中京大 19－10 岡山大
中京大 9－8 鹿児島大
岡山大 17－11 鹿児島大

［順位］①大阪体育大②中京大③岡山大④鹿児島大

▼決勝トーナメント1回戦

武庫川女大 37－8 山口大
大体大 23－14 福岡大

▼3位決定戦

福岡大 37（23－4, 14－3）7 山口大

▼決勝

大体大 20（10－9, 10－8）17 武庫女大

各地の記録から・・・

国体宮城県予選

（7月19日～22日／古川市総合体育館、古川工業高校体育館）

〈成年男子〉

▼1回戦
学院大OB 36－26 ピーターパン

▼準決勝
宮城教員 33－26 学院大OB
育英ク 37－18 古川工OB

▼決勝
宮城教員 28（14－11、14－10）21 育英ク

〈成年女子〉

▼1回戦
古川商ク 18－17 涌谷高OG

▼決勝
聖和ク 36（18－7、18－8）15 古川商ク

〈少年男子〉

▼1回戦
仙台一 15－9 泉松陵
SSKH 28－12 宮城水産
古川商 23－6 榴ヶ岡
佐沼 28－8 東北電子工
仙台南 24－12 仙台
仙台二 14－9 名取北

▼2回戦
古川工 33－7 仙台一
SSKH 29－13 宮城広瀬
東北 29－18 仙台商
古川商 18－17 仙台西
佐沼 17－16 古川
塩釜 20－15 仙台育英
MIN 29－16 仙台南
仙台向山 24－11 仙台三

▼3回戦
古川工 27－14 SSKH
東北 32－9 古川商
塩釜 16－15 佐沼
MIN 29－12 仙台向山

▼準決勝
古川工 39－16 東北
MIN 29－11 塩釜

▼決勝
古川工 30（16－8、14－6）14 MIN

〈少年女子〉

▼1回戦
宮城二女 29－6 仙台西
朴三聖和 22－5 朴沢女
涌谷 20－8 名取北
飯野川 23－9 仙台女商
古川女 22－1 古川商
塩釜女 46－5 宮城一女

▼2回戦
宮城二女 12－11 聖和学園
朴三聖和 26－8 涌谷
古川女 19－18 飯野川
塩釜女 19－13 宮城三女

▼準決勝
朴三聖和 19－7 宮城二女
塩釜女 16－15 古川女

▼決勝
朴三聖和 21（15－1、6－4）5 塩釜女

第29回近畿高校選手権

（7月20日～24日／京都府立体育館、伏見港公園体育館）

〈男子〉

▼1回戦
兵庫工（兵庫）16－10 彦根工（滋賀）
大阪商（大阪）28－16 育英（兵庫）
洛水（京都）17－10 米原（滋賀）
此花学院（大阪）18－16 西宮東（兵庫）
西宮北（兵庫）28－10 上牧（奈良）
東宇治（京都）20－12 県和歌山商（和歌山）
向陽（京都）24－10 彦根東（滋賀）
桃山学院（大阪）20－12 笠田（和歌山）

▼2回戦
都島工（大阪）19－19 3PTCO 兵庫工
大阪商 16－8 北嵯峨（京都）
添上（奈良）18－14 洛水
此花学院 26－11 那賀（和歌山）
三島（大阪）19－9 西宮北
東宇治 17－14 長浜北（京都）
向陽 22－8 檀原（奈良）
明石北（兵庫）16－13 桃山学院

▼3回戦
大阪商 23－13 都島工
此花学院 19－18 添上
三島 16－12 東宇治
向山 14－12 明石北

▼準決勝
大阪商 19（12－8、7－10）18 此花学院
三島 18（10－6、8－5）11 向陽

▼決勝
大阪商 19（9－7、10－2）9 三島

〈女子〉

▼1回戦
四天王寺（大阪）13－6 御坊商工（和歌山）
鈴蘭台（兵庫）18－14 東宇治（京都）
摂津（京都）19－6 生駒（奈良）
彦根商（滋賀）15－8 甲子園学院（兵庫）
粉河（和歌山）18－9 東稜（京都）
宣真（大阪）16－7 添上（奈良）
向陽（兵庫）13－11 城南（京都）
夙川（兵庫）31－6 高島（滋賀）

▼2回戦
四天王寺 20－11 鈴蘭台
彦根商 12－11 摂津
宣真 26－16 粉河
夙川 18－13 向陽

▼準決勝
四天王寺 11（5－6、6－3）9 彦根商
宣真 17（8－6、9－8）14 夙川

▼決勝
宣真 12（4－7、8－3）10 四天王寺

東京都高校総体

（日程、会場不明）

〈男子〉

▼1回戦
南葛飾 29－9 葛西南
佼成学園 22－16 杉並
南野 23－16 八王子工
清瀬 18－12 府中西
福生 26－21 田無
新宿 16－6 鷺宮
科学技術 20－15 広尾
城西大附 25－14 上野
東大和南 26－5 武蔵
八王子東 棄権 武蔵村山
本所 32－15 青山学院
早大学院 32－13 青山
墨田川 35－3 赤羽商
神代 35－8 館
保谷 12－7 創価
昭和一工 30－7 久留米
葛飾野 30－6 安田学園
駒大高 22－7 明正
学芸大附 11－10 両国
秋留台 33－5 拝島
田無工 36－1 山崎
大泉 20－16 修徳
大泉北 32－7 徳
錦城 22－11 小平南
府中東 26－3 久留米西
蒲田 27－12 園芸
井草 26－3 大崎
深川 20－13 雪谷
日野台 19－17 南多摩
砂川 34－11 松ヶ谷
東京 23－16 日大二
篠崎 35－4 向丘
白鴎 12－5 荻窪
江戸川 棄権 駒込学園
野津田 19－15 武蔵村山東
小金井北 29－7 東京菅生
西 不明 開成
東 19－18 豊多摩
江東工 20－14 江北
明星学園 26－16 秋川
国立 33－14 忠生

▼2回戦

南葛飾 31―12 城北
佼成学園 36―14 武工大附
南野 24―17 清瀬
国分寺 28―21 福生
科学技術 15―12 新宿
城西大附 23―18 小石川工
昭和 26―16 東大和南
東村山 25―10 八王子東
富士 12―10 本所
早大学院 26―12 墨田川
神代 20―10 保谷
昭和一工 20―11 富士森
駒大高 24―18 葛飾野
学芸大附 14―12 筑波大駒場
調布北 棄―権 秋留台
日野 36―5 田無工
早実 26―21 大泉
目黒 28―17 大泉北
東大和 29―18 錦城
府中東 33―6 羽村
蒲田 25―16 井草
深川 22―13 足立
日野台 19―16 五商
砂川 29―6 桜美林
東京 18―16 篠崎
江戸川 18―7 白鴎
野津田 30―10 武蔵野北
府中 35―21 小金井北
東 22―17 西
江東工 33―14 成城
立川 26―15 明星学園
国立 30―9 稲城

▼3回戦

佼成学園 20―13 南葛飾
国分寺 22―17 南野
科学技術 棄―権 城西大附
東村山 22―11 昭和
早大学院 27―4 富士
昭和一工 19―14 神代
駒大高 24―16 学芸大附
日野 25―14 調布北
目黒 24―15 早実
府中東 18―14 東大和
深川 24―18 蒲田
砂川 21―15 日野台
江戸川 24―11 東京
府中 31―18 野津田
江東工 30―13 東
国立 24―23 立川

▼4回戦

国分寺 23―17 佼成学園
科学技術 18―16 東村山
早大学院 30―14 昭和一工
日野 26―13 駒大高
目黒 19―17 府中東
深川 18―12 砂川
府中 25―20 江戸川
江東工 35―23 国立

▼5回戦

明星 36―7 国分寺
科学技術 20―18 小岩
早大学院 24―18 三鷹
中大附 12―9 日野
拓大一 24―11 目黒
石神井 18―16 深川
農大一 24―21 府中
日体荏原 25―10 江東工

▼6回戦

明星 35―12 科学技術
中大附 19―18 早大学院
拓大一 16―11 石神井
日体荏原 25―16 農大一

▼決勝リーグ

明星 20（9―7, 11―6）13 拓大一
日体荏原 22（9―12, 13―6）18 中大附
拓大一 19（8―8, 11―6）14 中大附
明星 18（9―12, 9―6）18 日体荏原
日体荏原 17（12―3, 5―7）10 拓大一
明星 25（12―3, 13―6）9 中大附

［順位］①明星②日体荏原③拓大④中大附※1、2位は得失点差。

〈女子〉

▼1回戦

共立女 14―5 吉祥女
学芸大附 10―6 篠崎
小平 25―8 武蔵村山東
日野台 9―6 福生
東大和 32―2 小平西
田無 18―0 八王子東
三商 9―8 井草
青山学院 15―3 日大二

▼2回戦

砂川 18―6 東京菅生
共立女 15―8 府中西
立教女 棄―権 目黒
葛飾野 15―6 西
国分寺 21―7 調布北
府中 14―5 東村山
学芸大附 14―5 江戸川
杉並 棄―権 園芸
小金井北 10―4 松が谷
小平 22―6 府中東
文大杉並 27―4 赤羽商
農大一 18―7 南葛飾
国立 18―7 清瀬
保谷 18―11 日野台
菊華 21―2 白鴎
小岩 棄―権 荻窪
富士森 19―0 清瀬東
東大和 19―8 二商
広尾 11―4 富士
葛飾商 8―3 東
明星学園 21―3 館
田無 12―2 武蔵
雪谷 13―11 本所
墨田川 不―明 南
拓大一 21―7 五商
文華女 9―6 南野
三商 13―8 豊多摩
一商 29―3 家政大附
武蔵野北 棄―権 武蔵野女
日野 21―0 野津田
大泉北 13―7 上野
青山学院 16―5 明正

▼3回戦

共立女 14―5 砂川
立教女 9―8 葛飾野
府中 8―7 国分寺
学芸大附 18―4 杉並
小平 20―0 小金井北
農大一 14―12 文大杉並
国立 16―11 保谷
菊華 9―8 小岩
東大和 15―9 富士森
広尾 12―4 葛飾商
明星学園 11―6 田無
墨田川 16―4 雪谷
拓大一 14―8 文華女
一商 18―10 三商
日野 25―1 武蔵野北
青山学院 14―10 大泉北

▼4回戦

立教女 13―9 共立女
府中 11―5 学芸大附
小平 13―12 農大一
国立 22―10 菊華
東大和 10―8 広尾
明星学園 14―8 墨田川
拓大一 棄―権 一商
日野 14―3 青山学院

▼5回戦

佼成女 34―0 立教女
府中 10―9 桐朋女
小平 17―5 桜水商
石神井 13―7 国立
藤村女 14―10 東大和
日体桜華 14―5 明星学園
神代 19―10 拓大一
江東商 21―4 日野

▼6回戦

佼成女 20―5 府中
石神井 21―10 小平
藤村女 25―14 日体桜華
神代 24―21 江東商

▼決勝リーグ

佼成女 26（13―4, 13―5）9 石神井
藤村女 25（13―3, 12―3）6 神代
佼成女 20（10―6, 10―6）12 神代
藤村女 29（16―3, 13―5）8 石神井
石神井 23（12―11, 11―9）20 神代
藤村女 17（9―7, 8―10）17 佼成女

［順位］①藤村女②佼成女③石神井④神代※1、2位は得失点差。

お願い

各地での熱戦の結果を少しでも早く、そして少しでも多くの試合を掲載したいと願っています。試合が終了次第、その結果を日本ハンドボール協会事務局内機関誌編集委員会宛お送り下さい。

その際、大会名、開催日時、場所をできるだけはっきりと書いておいて下さい。

全国のみなさんのご協力を心よりお願い申し上げます。

機関紙編集委員会

MIZUNO
THE WORLD OF SPORTS

80
SINCE 1906
ボクら、万有引力とたわむれる

コンケーブ意匠
ヘリボーン意匠
サイドモーション サポートリブ
ピボットリンク
フレキシブルゾーン

パワー効率重視。コートのマシン〈ランバード〉

室内コート専用のマルチファンクション ソール。

前後左右、あらゆる方向へのトラクション性にすぐれたヘリンボーン意匠をベースに、かかとには着地時の衝撃を吸収、分散するコンケーブ意匠を配置。また、ソール前半にはパワーロスを防ぐサイドモーション サポートリブ、回転運動の軸となるピボットリングをはじめ、屈曲性を高めるフレキシブルゾーンなどをレイアウト。多様なプレーに対応するソールパターンが生まれました。

〈ランバード〉ハンドボール シューズ
《ウイング ショット》¥12,000
● 甲/牛革 ● 補強材/人工皮革 ● 底/ラバー ハーフ シェル ソール
● カラー/**16KH-1527** ホワイト・レッドにメタリックネイビー ライン
/**16KH-1562** ホワイトにレッド ライン



for The Sports-minded Cosmopolitan



高度なスカイプレーが変幻自在。

スカイハンド®スペシャル（THH705）

- カラー　ホワイト×レッド・レッド×ホワイト・ロイヤルブルー×ホワイト
- サイズ　22.5～28.0㎝
- アッパー　ステア表革（ホワイト×レッド）
  牛革ベロア（レッド×ホワイト、ロイヤルブルー×ホワイト）

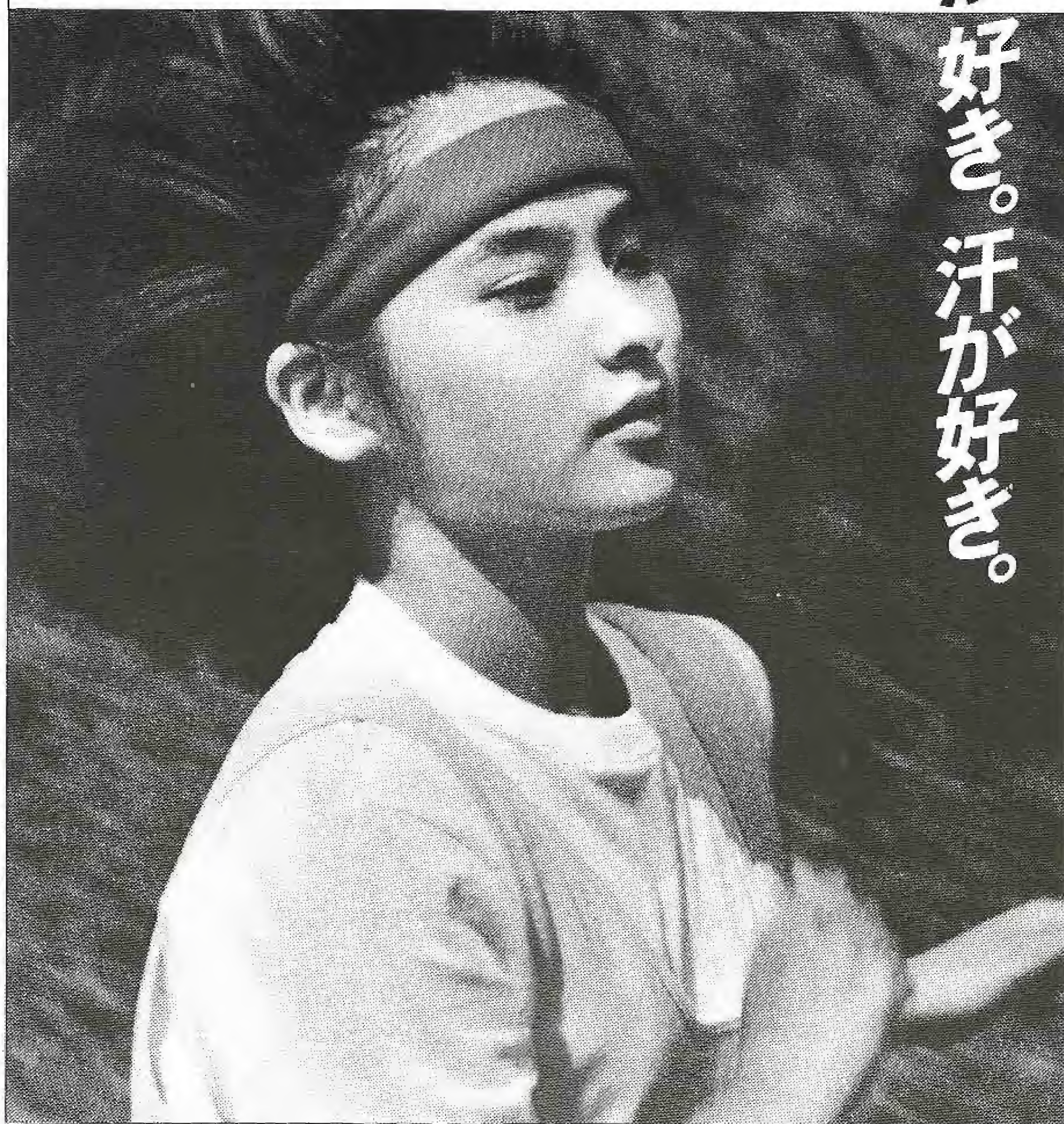
標準小売価格 ¥13,000

ASICS TIGER

襲う。

ストップ＆ジャンプ性能を徹底追求したシューズ、〈スカイハンド®スペシャル〉。つま先からかかとまで衝撃吸収性に富む超軽量スポンジE・V・A・を内蔵したカップソールが、素晴しい軽さ、ソフトな着地感、ストップ性を獲得しました。アクロバチックなスカイプレイを繰り広げながら、ヒッチコックの「鳥」のような圧倒的迫力でゴールを襲うハンドボーラーに捧げます。

株式会社アシックス



（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二五六号
昭和四十年六月[illegible]
第三種郵便物認可
昭和六十一年九月二十五日　印刷
昭和六十一年十月　一　日　発行
東京都渋谷[illegible]一−一−一
電話　代表（[illegible]）二三六一
振替　東京　六−五八三四八番
編集兼発行人　大野金一
定価三百五十円
（年間購読料三千三百円）